

海洋真時代 vol 2

2015年6月3日号 TRUE OCEAN ERA 300円

運命の年2015年!

真航路 環太平洋時代の到着と今後

食糧問題解決

あなたの食卓から食物が消える日

海洋政策の研究 提言一 海洋省の創設

地方創世は海洋創世 石巻・真の復興を考えるII

世界の釣り人集う「田代島世界海洋村」構想

内的70年談話 「戦後70年」の真の意味

海と人間 地球・人間の歴史概観

牡鹿半島より太平洋を望む

広大無辺な太平洋の海原を望む牡鹿半島。宮城県北東部にあって、西に石巻湾、田代島、網地島、東に金華山を抱きながら、太平洋に向かって南東に延びている。

初夏の牡鹿半島は、若葉青葉のいろどりのなか、桐の花だろうか、薄紫の花や紅色のツツジではなやいでいる。ゆるやかな緑の丘陵地帯を取り囲むリアス式海岸線は、月の浦など、エメラルドグリーンの入江を包んで、幽玄な天然の美を湛えている。沖合は黒潮と親潮が出会う、魚影豊かな世界三大漁場の一つだ。

半島の海岸線沿いに三十七の漁港があり、マグロやカツオ、サンマ、沿岸でも、牡蠣、ホタテ、ワカメ、ホヤ、ウニなど、魚介物は豊富でとびきりの美味しさ。海釣りの釣り人たちを引きつけ、一度訪れた旅人たちには、生涯忘れられない感動を与える。海と陸が溶け込んだ牡鹿半島の海岸線の美しさは、都会で暮らす人々には想像もつかないだろう。

瀬戸をはさむ左目の金華山は、恐山、出羽三山とともに東奥三大霊場の一つ。荘厳、神秘的な場所でありながら、気候は温暖で野生の鹿や猿が平和そうに暮らしている。



金華山は日本初の黄金の産地であり、東大寺大仏建立時にはここから黄金が献上されたともいう。古来から東北地方は黄金の産地に恵まれ、マルコポーロの「東方見聞録」で黄金の国ジバングの根拠になったところである。

あの日、大地震大津波はこの半島に容赦なく襲いかかってきた。この半島が震源地に最も近く、半島から裂ける海を見た人もいた。石巻地域一帯の犠牲は最も甚大で悲惨であった。今、牡鹿半島の漁港は、鮎川漁港をはじめ復興の端緒についたばかり。盛土をした建設中の防潮堤はあったが人影は見当たらない。痛む被災者の心に希望の光がさす日はいつだろう。

初夏の爽やかな陽光に輝く牡鹿半島は、寄せては返す生命の波に呼吸を合わせながら、震災の爪痕を残した海岸線を優しくいたわり、変わらぬ美しさで励まし続けている。再び大漁旗が風にたなびき、喜ぶ子供たちの歓声が戻ってくる日を待ち望みつつ…全ての出来事を見守りながら…。

(牡鹿半島 御番所公園展望台から太平洋を望みながら)



海洋精神

～ 黒潮のごとく ～

人々は波を恐れます。波は風に乗って波打ちますが、風が吹いて波が立ってこそ、海の中に酸素が供給されるのです。風が吹かずに波のない静かな海が続けば、海は死んでしまいます。波が大切だということを知れば、もはや波は恐ろしくないのです。強風が吹いて波が荒々しくても、それが海の中の魚を生かす道だということを知れば、かえってそれを海の魅力として受け入れるようになります。

黒潮について考えてみましょう。海流は偏西風と貿易風によって引き起こされますが、潮流は、太陽と月、特に月の引力によって上下運動として起こされます。黒潮は北赤道海流の一部で、1万4500キロメートルになる世界最長の海流であり、北太平洋の西岸境界線として北方を流れ、黒潮続流は西太平洋に暖流を戻します。

太平洋を巡る海流の力は、巨大だという表現では不足です。太平洋には、あらゆる水が流れ込んできます。河川の水も、大西洋の水も、地中海の水もみな流れ込みます。ここに黒潮があり、この黒潮が巡っていく力によって全世界の五大洋が動いています。もし黒潮がなければ、世界の海の水は循環せず、すべて死んでしまいます。いくら大きくて悠々とした川でも、結局は海に流れていくのと同じように、いくら大きくて勇壮な世界の海も、黒潮の力強い水の流れに従って動くのです。

私たちは、世界を導き生かす黒潮にならなければなりません。世界の生命力を一箇所に結集させる力の源泉にならなければならぬのです。

海の水は愛と同じです。空気は、真空が生じさえすれば世界の空気を動員して、さっとそこを満たしてしまいます。海の水もくぼみが生じれば、さっと押し寄せて水平になろうとします。空気も水も愛も、常に水平になろうとするのがその生き方です。

社説 真航路

環太平洋時代の到着と今後

6

特集

食糧問題解決

あなたの食卓から食物が消える日

10

海洋政策の研究

提言一 海洋省の創設

14

シリーズ 地方創生 海洋創生

石巻・真の復興を考えるII

世界の釣り人集う「田代島世界海洋村」構想

16

世界はひとつ

「日パ圓母平愛友好協会」創立

20

Discovery

日本人と南北米先住民の先祖は同じ

23

世界の釣り 日本の釣り

山口・浜松・アラスカ

24

時事解説

内的70年談話 「戦後70年」の真の意味

28

海と人間

第1篇 地球・人間の歴史概観

31

ここに人あり

佐々木吉夫 憧れに全てを捧げて進む これぞ我が闘い

34

歴史の光

改革の勝利者 上杉鷹山

為せば成る 為さねば成らぬ何事も

成らぬは人の為さぬなりけり

38

真航路 環太平洋時代の到着と今後

佐藤 健雄

「航海」とは、未知の世界の開拓、予測なく連続する困難の克服路程を意味することと言えるでしょう。夢をもつてその困難を克服してこそ、新天地ともいべき希望の世界に到達できます。

世界人類のために貢献できるプロジェクトとは

私は1961年18才の時、福島の田舎から東京に出てきました。高校時代、黒い人民服を着た社会学科の先生と黒い燕尾服を着た人文地理の先生が、全く違った観点に立って「社会や国家、世界の為に生きる道」を教えてくださいました。私はその二人の先生の考え方に触れ「本当の意味で社会や国家、世界の為に生きる」ということはどういうことだろう」と考え始めました。私は大学生活4年間でその答えを見出すために上京いたしました。

その頃、米国では、ジョン・F・ケネディが第35代米大統領として、非常に斬新なデビューを果たしていました。浪人生であった私は、彼の政策に興味を持ち、英語の勉強も兼ねて、在日アメリカ文化センター発刊の彼の政策演説文集(対訳付)を全部取り寄せ、何度も何度も読み暗記するまで覚えました。そこで「一番関心を持ったことは、ニューフロンティア精神に基づく『ピースコア』でした。

この「ピースコア」は一体何をやるのだろうか」と調査しま

した。結局のところ「アメリカはピースコアという美名のもとで南米から資源を収奪している」ということでした。62年4月、私は早稲田大学理工学部土木科に入学しました。大学では、哲学、宗教、日本の国体、国連等、できる限り全ての分野を学びました。結論は、「まず南米ペルーに行つて、地球総合開発株式会社をつくり、ペルーでピースコアに対抗出来る仕事をする事、その上で最終的に、世界人類のために貢献出来るプロジェクトを行うこと」でした。そこでちょうど訪日していた、ペルーのフェルナンド大統領(当時)にレセプションでお会いし、大統領からの承諾と協力を確認した後、ペルーに行く計画を立て準備に取りかかりました。しかし、大学4年になつてから「本当の意味で社会や国家、世界の為に生きる生き方」について温めてきた選択枝の中で、内的世界からのアプローチを考えるようになりました。「人間が根源的に変わらなければ、外的な手段だけでは世界は良くならないこと」を考え始めていたのです。同じ価値観を持つていた友人との出会いがあり、海洋事業に取り組むことになりました。

日本で20年、米国で20年事業に取り組み、学生時代に南米行きを志してから約40年後の2004年、61才にして事業拡張のために南米に行くことになりました。行き先はペルーではなくパラグアイでしたが、遂に南米に行くことになったのです。米国で約20年間海洋事業に携わり、それからパラグアイに行つたのですが、そこで考え

させられたことは米国と南米との関係でした。

米国ニューフロンティア政策の失敗 反米容共化した南米

米国はもともと、英国の清教徒達が信仰の自由、神の下における人権、平等を求めて建国した国です。富を求めてやって来た人々がつくった国ではありません。その結果、米国は神様の祝福を受け、独立以来わずか150年余りで世界の軍事力、経済力の半分を持つようになりました。第二のローマとさえ言われ、米国一國主義時代が到来しました。第二次世界大戦後の1945年当時、米国の若者達の80パーセントは、「将来の希望は牧師になること」でした。当時、米国は十分にピューリタン精神や建国精神を維持していました。その後も、世界の警察と言われるほどに、国連に代わり世界秩序を維持する役割を果たして来ました。しかし1960年代になると米国の建国精神は急速に崩れはじめ、ヒッピー、ホモ、エイズが上層部から下層部に至るまで蔓延し、若者達は利他的で経済的な価値だけを追い求めるようになりました。

本来は、清教徒たちは鱈(たら)釣り漁船でプリマスロックに辿りつき、グロースターを拠点に漁業を営み、感謝祭には、ロブスターや鱈を食する「海洋族」でした。いつの間にか海に出なくなり、魚も食べなくなり、感謝祭

はターキー(七面鳥)で祝いするようになりました。海から遠ざかり、英国から受け継いだ「海洋精神」も、建國精神と共に忘れ去られました。従って、1962年にケネディ大統領が掲げたニューフロンティア政策は、単に米国の経済的利害を求めた開拓となりました。米国の南米の木材や畜産物から上がる利益の67%以上を搾取したので、南米は反米となり容共化していったのです。

南米はもともと蒙古班を持つアジア人が開拓し、マヤ・アステカ、インカなどアンデス文化文明を築いて南米東部まで治めていました。この南米に、英国の清教徒達が北米に到着した時と同時期に、スペインやポルトガルを先頭に、主に腐敗し形式化したカトリックの信奉者達が、資源略奪の目的で南米を支配統治しました。

従って南米から神様は離れ、南米全体は利益争いにより33カ国に分裂し世界最貧国地帯になっていきました。この南米に、経済的利害を求めて進出して来たのが米国です。神様の祝福から離れ腐敗堕落していく米国が、南米での資源略奪にあきたらず、今度はアジアに資源略奪の矛先を向けようとしているのが、今日の現状です。米国がこのような国であり続けるならば、真の環太平洋文明時代をリードすることはできず、文化文明の変遷史に逆行するばかりか、米国は人類発展史に重大な支障をきたす国となってしまいます。

1960年代の米国の南米政策により、南米の人々は米国を嫌うようになり、殆どの国は、基本的に反米・左翼主義陣営になってしまいました。私がビジネスで初めてブラジルを訪れた1995年頃、サンパウロ空港から乗るタクシーの運転手に英語は通じませんでした。私の友人の米国人もブラジルで同じ体験をして、この世に英語の通じない国があるんだとビックリしていました。反米感情の現れでした。現在、南米ではパラグアイだけが反共・親米国家です。

北米・南米間の問題解決により 真の環太平洋時代が到来する

南米をこのような状況に放置したまま、ひとり米国だけが、資源や市場を求めてアジアに来たとしても、アジアの人々は「泥棒が来た」といって、米国に対して拒絶反応を示します。なぜなら、米国は、米国の裏庭である、しかも宗教的には兄弟国である南米との問題を解決し、南米と共に、共存共栄平和の心でアジアに來なければならぬからです。

歴史の流れにも焦点歴史あるいは中心歴史がありません。北米・南米間の問題が本質的に解決しなければ、真の環太平洋時代は到来しません。深刻なアフリカの問題や東南アジアの貧困問題もありますが、その解決を急げば急ぐほど、環太平洋時代の到来を現実化しなければならぬでしょう。歴史の流れから言えば、北米・南米間の問題を早く解決することによって、環太平洋時代が真の意味で到来します。中東問題(ユダヤ教・基督教・イスラム教)、ヨーロッパ問題(共産・民主)も、本来は過去に解決されているべき問題です。それが未解決なまま尾を引いて今もなお再燃しています。現在の課題は過去の課題と密接に関連し、過去の課題の解決は、現在の近未来の問題を解決する事によって解放されると思われます。

私たちがなぜこれほどまでに環太平洋時代の到来を切望するのでしょうか。「海に諸問題解決の鍵がある。世界の経済、食糧、資源、科学開発、人間教育に至るまで海によって解決される」と考えているからです。痛恨極まりない国内外の諸問題。一瞬でも早く解決するために、環太平洋時代の到来を現実的に展開したいのです。

この時代にあつて海洋民族・ 日本が果たすべきこと

日本も戦後55年体制の中で、共産党と共産主義唯物論が合法化され、一方では腐敗淪落した欧米の基督教文化文明を受け入れながら世界第二位の経済大国となりました。しかし、代償として大切な価値を失いました。海洋民族の本質を失い、無神論的唯物思想と欧米の物質文明に毒され、精神よりは物質、宗教よりは科学や経済に重きをおいて生きる民族に変質してしまいました。エコノミックアニマルです。これでは日本は神様の祝福は受けられません。日本は島国です。もともと日本は古代より海洋で生きる優秀な海洋民族でした。これからも、敬天博愛思想を持った海洋民族とならなければ、環太平洋時代の主役になる事は出来ません。

私は1986年、米国に渡り、当初2年8カ月間、フロリダ州北部で、大西洋を舞台に、ボトムロングライン(底引き延縄業)を中心とする釣り船や釣り具店、魚販売、シーフードレストラン、日本レストラン経営等の海洋事業に従事していました。この頃、米国のスーパーマーケットでは何処にいても魚販売のコーナーはありませんでした。私は、日曜日には従業員全員を釣りに連れ出しました。私は、毎晩決まって友人と共に、28フィートのボートでセント・ジョーンズリバーにボラや海鱒、渡り蟹を捕りに出かけました。毎年、夏には3カ月ほどボストンでジャンボマグロ釣りに挑戦し、通常は毎月1週間から10日間は、リンダスーという52フィートの漁船で大西洋のど真ん中まで出かけ、ロングライン(底引き漁)に従事しました。真鯛、白鯛、黄鯛、ハタやカワハギなど、超新鮮な魚を直接レストランに供給し、従業員たちに喜ばれました。

1989年に英国の食糧学者マイケル・クロフォード

がDHA(ドコサヘキサエン酸)を発表し、WHO(世界保健機関)は、「日本人が世界一健康で長生きする原因は、魚類の蛋白質を摂取しているから」と発表するようになりまし。その後、様々な実験を通して、「人間は海岸線に住み海に出れば、健康で長生きできる」ことが世界の人々から周知されるようになりました。陸上物質至上墮落文明に毒された人間も、「海洋生活を通して正常化される」ことに米国人は気づくようになったのです。

1994年、国際海洋法が発効されると同時に、世界160カ国余りがこれを批准いたしました。日本もこれを批准し、2000億円かけて海岸線をコンクリートで強化しました。現在、この多くが、米国のようにスポーツボートやエンジン産業振興のために使われるのではなく、漁協主管の避難港として使われています。この間、トヨタ、日産、マツダ、ホンダ、トヨタ等、日本の殆どの自動車会社、エンジン会社は、民間企業として、米国のスポーツボートやエンジン産業が発展する様子に刺激され、スポーツボート、マリンエンジン業界に参入いたしました。しかし国際海洋法批准以降に造られた港の使用はあまりはかどっていないのが現状です。漁協がスポーツボート業界と共存しようとしなためです。但し、欧米では基本的には自動車会社はスポーツボート産業には進出していません。海を熟知しなければ、一歩間違えば死と隣り合わせの大海での経験がなければ、荒波を越えていく安心安全な船をつくることはできません。日本のスポーツボートがアメリカ市場で売れなかつたり、日本でスポーツボートやエンジン産業が育たない理由の大きな要因が、この辺りにあるのかも知れません。

日本は、国際海洋法を受け入れておきながら、「200海里沖合に生息する魚をスポーツボートで釣るのは危険、適切ではない」という概念をもっているた

め、この産業が育ちません。「海での生活が人間にとって死活的に重要である」という概念も育っていません。米国では「陸の終わりが生命の始まり」という概念が一般化し、誰もが海に行く生活を志向しています。日本人は今だに「海は危険、魚は漁師が職業として捕って販売するもの」という古い概念から抜け出せないでいます。底引き網や延縄漁船などの大量捕獲方式で捕った魚は、市場で一日置くと腐り始め臭くなります。それによって魚嫌いが多くなっています。人間が食べる食糧の殆どが海に生息しているにも拘わらず、人間は陸上で無理をしながら動植物を増殖して食べ、食糧問題、健康問題を招いています。悪循環が起きています。

一方、韓国はと言えば、E.E.Z(排他的経済水域)が日本と韓国の中間線として設定されるため、国際海洋法を批准した場合、韓国の漁獲量は以前より減少し不利になります。しかし、韓国はこれを批准して「韓国の将来の核心産業はスポーツボートやエンジン産業だ」と宣言いたしました。2020年を目指して、麗水や木浦、釜山を中心とする南海岸海洋リゾート時代創出のための法律を制定し、2012年には麗水海洋博覧会を開催しました。既に釜山港を北東アジアのハブ港と位置づけて拡張し、海洋総合大学もつくり巨大な投資を継続的に行っています。

すなわち、韓国は、IT産業やロボット産業、自動車、機械産業、航空産業、宇宙産業より、スポーツボートやエンジン産業を中心とする海洋関連産業に力点を置き、海洋先端技術最先進国家になることを明確に目指しています。そうすることによって環太平洋時代の主役国家となり、ひいては米国に代わる第三のローマとして発展していこうと考えています。韓国はこのことを英国の教訓から学び、海に繁栄の鍵があることを知って、環太平洋時代の到来に備え国策で着々と準備を行って

います。

神様の創造物である被造世界の中で、最も深遠な創造性や科学性が内包されている海。人間や動植物など有機物の生命の起源は海にあります。ボートで海に出て、海で自由に生きる民族となり、豊穡無限な海を治めるとき、真の平和と繁栄の時代へ向かって飛躍していくことでしょう。

パンタナール地域に世界最高水準の文化文明の中心地帯

ここで、日本が目指さなければならぬことは何でしょうか。南米問題を積極的な意味で解決することです。地球星には北極と南極があるように、文化文明にも両極があります。日本列島と韓半島を含む北東アジアに対して地軸の反対側に、南米パンタナールがあります。近年益々世界の注目を浴びているこのパンタナールは、調和した四季のある、海と陸が重なり合う世界最大の湿原地帯、世界最高の薬草が生息する肥沃な地域です。この地域は人間が住む上で、地球上のもう一つの生活最適地、地球星の文化文明のもう一つの中心地です。

現在私は、この地域の中心地であるパラグアイに、ボート事業を興しています。環境問題に対して地球上で最も敏感なこの地に、環境を破壊せず、持続発展可能な海洋観光趣味産業を興し、そこから世界に発信できる世界最高水準の文化文明の中心地帯をつくりたいのです。

私は、米国で18年間、魚釣り、魚販売、シーフードレストラン経営などに従事しながら、米国のスポーツボートやエンジン産業発展とあいまってボートを製造し販売し、高い評価を受けるようになりました。それを踏まえ2004年から、パラグアイのアスンシオン市の対岸、パ

ラグアイ河畔のチャコイ地域に23万坪の用地を入手して、ボート工場を建設しました。日本人技術者が米国で開発したボートを南米で更に発展させようという挑戦です。

工場のあるプレジデント・ヘイズ州の意味はヘイズ大統領州という意味で、130年前の三国戦争によって、民族絶滅の危機に瀕したパラグアイを救った第19代米国大統領ラザフォード・ヘイズに因んでつけた州名です。恩義に篤いパラグアイ人の国民性を覗かせています。現在、日本人技術者を送り込んで、パラグアイ人を訓練教育しながらボートを製造し、日本に米国製パラグアイ産ボートとして販売しています。

2004年、私がパラグアイで会社を設立した頃、パラグアイは腐敗度ナンバーワンの国と言われていました。事実、私の知人が運送会社を始めようと土地を買収し、会社設立のために銀行に50万ドル預けたところ、その銀行はその晩の内に夜逃げしてしまいました。私自身、事業計画書を作成したところ、リスク無限大でした。勿論、製造コストは米国の8分の1ほどでしたが、当然、投資する人は誰もいません。当時、パラグアイに材料と先進技術を持ち込んで、そこから海外に商品を販売している会社は、一つもありませんでした。ビジネスリスクが余りにも大きかったからです。

しかし、私はどんなに難しくても、このようになってしまった原因を究明し、この事業を成功させると決意しました。時代の要請を感じ、前進する情熱は消えることはありません。ボート事業を展開することによってパラグアイを貧困から脱出させ、日本や英国や米国のような、北半球で最も豊かな国々以上の国になるよう、共に発展させるつもりです。今でもこの国は誘拐産業が最も盛んな国と言われます。日本から送る技術者の安全も深刻です。人家のない地域のパラグアイ河でエンジントラ

ブルを起こしたら、1時間以内にギャングが襲ってきます。しかし私は、このような環境での特殊な安全策を構じ回避策を取っています。

パラグアイの自然は、島国である日本に比べ非常に厳しいものです。身体に少しでも問題があれば顕在化します。身も心も強くなければ、パラグアイでの生活は務まりません。各諸機関などでは日本や米国での常識は通じません。カトリックがつくった文化文明です。最近、弾劾されたルゴ前大統領は、大きな教区を担当するカトリック司教でした。大統領に就任した途端、沢山の女性の子供連れで名乗りをあげ、大統領に子供の認知を迫りました。次々と、7人まで表沙汰になりました。因みに今回、独立騒ぎで注目を集めたアイルランドは85パーセントがカトリック信者です。パチカンの反対にも拘わらず、この国では62%強の人々が同性婚を認める憲法改正を承認しました。

世界は荒れに荒れています。本当の神様がいないければ乗り越えていけない時です。いつも、パーフェクトス टीम(抜けれられない完全な嵐)が襲ってくる海のようにです。エンジンがしっかりした絶対不沈船でないと思えば乗り越えられません。しかし、このような時であればある程、私たちはパラグアイに多くの真の友人が出来つつあります。この友人たちは、本当にパラグアイの問題を解決したいと願い、まっすぐにそれを実現しようとする方々です。何百年、何千年の歴史を通して積み重ねられてきた、全ての悪や不義の因縁を越えて、人々と後孫のために本当のパラグアイをつくらうとする人々です。

超国家 超宗教 超民族 環太平洋 一大海洋観光趣味産業圏 構築

人類歴史は今、陸上生活偏重時代から、歴史の始源

である海、海洋時代に回帰しようとしています。地球がそうであるように、人体がそうであるように、3分の2の人生を海で生活し、海に生活の基盤をつくり、きれいな太陽光、空気、水の中で生命に溢れた生活をするのが人間の本性に叶っています。海では無限の創造性、科学性が啓発され、真の愛、平等、平和の感性も海で深まります。創造主であられる真正な神様を、心で知ることが出来るどころ、人と和することができるところ、それが海です。海で陶冶される豊かな海洋精神によって、これまでのあらゆる陸上偏重生活時代から来る精神問題を解消し、人類が抱える諸問題を克服していくことができます。

共に海洋真時代を創造する時を迎えました。大航海時代を越え、大海運時代を越え、大漁労時代を越え、今や「200海里海洋趣味生活時代」に突入する時代を迎えています。環太平洋時代の到来に際して、日本はその玄関口です。太平洋の黒潮が日本海流とも呼ばれる所以は、太古より日本人が、優秀な海洋族としてこの黒潮に乗って環太平洋圏を往来したからです。太平洋圏は実に地球の半分を占めています。

私と私の仲間、この黒潮の流れに沿って、北東アジア、北米、南米、ソロモン等を結ぶ環太平洋圏海洋交通網をつくり、遊覧船や遊覧海上移動都市を走らせ、超国家、超宗教、超民族の環太平洋一大海洋観光趣味産業圏構築をめざしています。地球星全体が繁栄と平和の中で輝く環太平洋海洋文化文明圏の構築をめざします。

佐藤 健雄 (さとう たけお)

福島県出身。早稲田大学土木工学科。趣味はスポーツフィッシング、狩猟、マラソン。趣味が高じて不沈絶対安全安心ボートの製造に挑戦。Hobby World Marine Group CEOとして日本、米国、南米を拠点に精力的に活動。グローバル企業をめざす不変不屈の永遠のファイター。海の思想家。海のエキスパート。

「あなたの食卓から食物が消える日」

序論

食糧問題を取扱うに当たり、最初に触れなければならないことは、食糧問題とは、単に食糧不足を解決し人々を悲惨な飢餓から救い出すことだけをさすのではなく、人類全体が、食糧を等しく正しく食べて、豊かな食文化を確立し、人生の目的を正しく追求できる状態を創り出すまでのことをいいます。何故なら、食糧は人間にとって死活的に重要な人間生活の必需品ですが、食糧が人生の最終目的ではないからです。「衣食足りて礼節を知る」と言いますが、食がこんなにも痛撃を受けている人類社会では、人生の目的や価値さえまともに追求出来ない状況です。そのため、私たちは徹底的に食糧問題の本質を探り、抜本的、現実的な解決策を構築する必要があります。

とはいえ、この問題を解決する妙薬を提示できた人は人類史上、未だかつて誰もいないのが実情です。ですから、私たちは、この歴史的な全人類の問題を確実に解決するために、全力を尽してこの課

題にとり組む必要があります。食糧問題はポランテアの発想で単純に解決できる課題ではありません。しかも、言葉だけでなく実際に解決する方策を提示しなければなりません。マルクスも「食の平等」を謳いながら共産主義唯物論や唯物史観・労働価値説まで構築し、食の平等社会の実現に挑戦しましたが、200年余りの挑戦の末、完全に失敗いたしました。片や、自由、人権、平等、法の支配等を普遍的価値であると謳ってきた自由主義も民主主義も、食の平等には程遠い世界に行き着いてしまっています。どこに解決策はあるのでしょうか。

皆様は、世界で最もたくさん余剰食糧品を抱えている人口3億人の米国に、4700万人もの飢餓人口がいる事実を信じられますか。米国南西部のテキサス州エル・パソに行かれたことがありますか。全く平らな平野の真中を米国とメキシコの国境線が走っています。米国側のエル・パソでは高級車が走り、高層ビルが立ち並び、ショッピングモールが沢山あり、人々は豊かな生活をしています。しかし、

一度国境のゲートをくぐって隣の町、メキシコのフアレスに入ると状況が一変します。土埃の道路が走り、土壁で造った家の周辺には、土埃で真黒になった人々が仕事もなく力なくたむろしています。自動車はまばらで、明らかに貧しく、多くの人々が飢えに苦しんでいるのが一目瞭然です。治安も悪く、辺りの美しい自然とは裏腹です。米国では25セント(約50円)で電話は30秒しか話せないのですが、ここでは25セントで100回も電話がかかけられます。同じ平野で生活している人々の暮らしが、国境の両側でこんなにも違う風景になつて展開されているのです。

1998年、ホンジュラスに強力な台風が襲いました。その時、ホンジュラスの人々はメキシコ国境を越え、米国に侵入していきました。その時、米国の要請を受けてメキシコ軍が国境に配備され、米国への侵入者は、見つければ直ぐに撃ち殺されました。それでも、ホンジュラスの人々は殺されることが分かっていても、空腹を解決するために米国にだれだれで行きました。命懸けで食糧を求めたのです。食

糧は生命をも越えさせるのです。

5年前、ハイチ地震では30万の人々が亡くなりました。その時、判ったことは、ハイチの人々の60%が泥で野菜を包み太陽の熱で焼いて、泥パンを食べていたことです。空腹を凌ぐため泥パンを食べて4歳までに40%の子供達が死んでしまいました。周りはカリブ海で豊富な魚に囲まれ、即ち最高の食糧源がすぐ手の届くところに生息しているにもかかわらず、恒常的な食糧不足なのです。同じように水が豊富で、世界最大のイタイプーダムをもつパラグアイのチャコ地方に住んでいる人々も同様です。そこには電気もなく、病院も学校も家もなく、パラグアイ川の泥水を飲んで4才までに40%の子供達が死んでいくのです。

アラブの春で、チュニジアやリビア、エジプトの独裁政権が倒れていったことも食糧問題がその大きな要因といわれます。3年前から世界の穀物市場が2倍から3倍に高騰し、貧しい方々に皺寄せが行き、彼等は生命をかけて食べるために独裁政権を倒したのです。人口増加と飢餓問題と格差社会をこのまま放置すれば、2020年から2025年頃には人類は食糧戦争に突入するだろうと国連は予測しています。人口が90億人になり、国連が予測しているように、飢餓人口が現在の2倍の20億人になれば、ちょうどノアの時代と同じだといわれます。ノアの

時は、人が人を食べるようになり、母親が子供を食べるようになったために神様が洪水審判を行いました。

長い人類歴史の中で食糧問題を解く鍵となる諺がありました。「一匹の魚をくれた人の恩は、その魚を食べ終わると忘れてしまう。しかし、どうしたら魚が捕れるかという方法を教えてくれた人の恩は、生涯忘れることがない」という諺が、日本には勿論、英国にもエジプトにも中国にも米国にも韓国にも、どこにでもあります。従って、国連の食糧プログラムは腕に覚えのあるキャブテンを雇って、ボラントイアでアフリカの貧困国々に送って漁業を教えています。しかし、それによって食糧問題を改善できたとか、解決できたという話は、未だに聞いた事がありません。



イエス様の時代、すなわち2000年前、人類の人口は3億人だったといえます。1945年

8月15日、第二次世界大戦終結時の人口は25億人といわれ、2000年間で22億人増えたことになりました。ところが戦後、人口は急激に増加し、1975



ますます悪くなっています。

2010年、オバマ大統領は当時のG8(主要8か国)から5年間かけて約5兆円を開発途上国に援助すると言いました。日本も昨年、アフリカへの援助として民間も含め3兆6000億円のインフラ投資を決めました。しかしながら人類の食糧問題は、先進国家の食糧援助や経済援助で解決することではありません。開発途上国のインフラを整備してあげたら食糧問題が解決することでもありません。それらは、ますます勝者独占の社会をつくりだすだけです。中国は自国内に世界最大の飢餓人口を抱えながら、他国のインフラ援助をしています。何のために援助しているのでしょうか。第二回食糧サミットで国連は、2025年頃、世界は人類崩落を意味する食糧戦争に突入するだろうと予測しています。実際、人類は地球の表面積の3分の1しかない陸地で、穀物、野菜などの農作物や牛、豚、鶏などの家畜などによって食糧を得ようとしています。陸上では人類が必要とする3分の1の食糧しか生産できませんが、陸地の2倍ほどある海の魚介類によって、必要な食糧の3分の2を賄うことができます。スウェーデンの研究所が発表している調査結果によると、海を、神様が創造した状態と同じ本然の海に戻せば、海では400億人が食べられる量の魚介類が生息できると試算しています。実際、魚は平均30万個の卵を産み、マグロは

年には45億人となりました。戦後30年間で、これまで2000年かけて増えた人口とほぼ同数の人口が増えたことになりました。そこで1976年、国連は全ての国家元首を集めて、第一回食糧サミットを開きました。世界の食糧問題が一挙に顕在化したためです。この時、「科学の成果によって食糧は科学的に増産可能なので、食糧問題は20年で解決できる」と宣言しました。20年後の1996年、同じイタリヤ、ローマで、第二回食糧サミットが行われました。ここで判明したことは、食糧問題は20年前よりはるかに悪化し、科学の力では食糧問題を解決することが出来ないという事実です。科学の発達はむしろ公害問題や環境破壊を引き起こし、科学による食糧増産は見込めないことが判明しました。そこで、第二回食糧サミットは、結論として「解決の目途は立たないことを認識し、その上で、20年先の2016年までには食糧問題の50%を解決しよう」と宣言しました。事実のところは解決を放棄した状態です。到底食糧問題を解決できる見通しはありません。ま



120万個といわれています。しかしながら現在は孵化率が0.8%です。世界的に漁獲高は年々減少しています。公害と環境破壊と乱獲のゆえです。養殖も食糧問題解決の一つの方法となるでしょう。

計してみると食糧は充分あるのか、科学がもつと発達すれば解決できるだろうと言う人がたくさんいます。それでは、なぜ今まで解決できなかったのでしょうか。人類歴史に常に存在した食糧問題を、人類はこれまで一度たりとも解決したことがありません。逆に、食糧の豊かすぎる人は食べ過ぎで身体を壊し病気になるという、もう一つの食糧問題を引き起こしています。

米国のある食糧問題研究所は、「人類始祖アダムとイブが墮落してエデンの園から追い出された時、神様が『あなたがたは、これから額に汗して食糧を獲るようになるだろう』と言われた。その時以来、人類は食糧問題を抱えている。食糧問題はアダムとイブの墮落に起因している」と言っているほどです。即ち、人類は他人を犠牲にしなければ、充分な食糧を自力で生産できない墮落した存在であると言っているのです。

人間そのものが造り出している」ということです。人間が変わらない限り、最終的には食糧を奪い合う、歴史上に類例のない悲惨極まりない食糧戦争に突入していくのは火を見るより明らかです。

実際、食糧問題を引き起こしている原因は、生産量や分配の仕方とか消費の問題ではありません。それらが問題の原因であると考える限り、人類の食糧問題は解決しないでしょう。単純に生産量を合

生の目的を極めていく」ためには、一体どこに解決策があるでしょうか。それは、地球の3分の2を占める「海にある」ということは論をまたないでしょう。これまで食糧問題を解決することができなかった根本原因は、陸地のみで食糧問題を解決しようと考えたところにあると言っても過言ではないでしょう。

1989年、英国の食糧学者マイケル・クロフォード博士は、DHA(ドコサヘキサエン酸)を発見しました。このDHAが人間の身体に最も適合した蛋白質であり、健康のために最良の蛋白質であることが証明されています。しかも、この蛋白質は魚にしかないのです。このDHAは、人間の頭脳まで入っていくことができ、頭脳を活性化し、頭脳の働きを良くするといわれています。確かに英国では古くから魚は「Brain Food 頭脳食」といわれて来ましたが、クロフォード博士はそれを科学的に実証したわけです。この発見以来、WHO(世界保健機構)は、「日本人が世界で一番健康で長生きする原因は、日本人が魚介類の蛋白質をより多く摂っているから」と毎年発表しています。米国人は「Eat Fish, Live Longer 魚を食べなさい。そうすれば長生きする」という標語を掲げて週の3日間は魚中心の食事をするようにしました。1994年頃から米国人は、以前より10倍以上の魚を食べるようになり、寿司ブームが驚異的に世界に広がって行ったのもこの頃からで

す。肉類を食べ過ぎるとそれだけ病気が多くなります。陸という陸はすべて海に囲まれています。海岸であれば、どこでも魚は十分に捕れます。海からパイプで砂漠に海水を引けば養殖ができ、砂漠で飢えることもなくなります。人間の身体



は3分の2が塩水を中心とする水分で成り立っています。地球も3分の2が塩水で覆われた地球です。ですから、人類の食糧問題を解く根源的な鍵は、海に人類生活の基本をシフトすることです。

海には人間を根源的に変える力があります。海は食糧資源のみならず鉱物資源、エネルギー資源など、陸地よりはるかに豊かな海洋資源に恵まれています。しかし、それ以上に注目すべきことは海のもつ特性です。海は国や民族、宗教が違うからといって分け隔てしません。窪みがあれば海水は自動的に高い所から低い所へ動き、窪みを満たして平準化を計ります。海は親のような愛に包まれたところでは比べられないほど高い所、被造世界を創造された神様に一番近い所です。海は、人間の霊性や精神性、肉身の五感を深く鋭敏に陶冶し、創造性、科学性、主管性等を飛躍的に啓発し伸張させる革命的なところなのです。

今日まで陸上主体の人類歴史は、結果として発展より後退が、建設より破壊が、成長より負債がより多く展開してきました。諸説のように生産と配分と消費を調整するだけでは、食糧問題を解決することは絶対に不可能です。陸から海へ発想を大逆転し、「海が人間の主たる生活の場」という海洋思想に基づいた社会を迎えてこそ、食糧問題を完全に解決することができるのです。

(編集部)

次号からの「食糧問題解決シリーズ」内容紹介

目次

1、食糧問題の全容

- (1) 人類歴史上常に存在した食糧問題
- (2) 食糧問題は科学の力では解決できない
- (3) 人間の食糧を産みだすところ

2、現在の食糧問題

- (1) 一日に6万人、一年間に2000万人が餓死している
- (2) 現在10億人以上が飢餓状態
- (3) 2020年には飢餓人口が20億人
- (4) 国連の予測によると2025年から食糧戦争に突入
- (5) 食べられずに死んでいく人々の悲惨さ
- (6) 日本は60%の食糧を輸入に依存
- (7) 脆弱な日本の食糧安保

3、食糧問題の根源的原因

- (1) 世界的研究機関が提示する究極的原因
- (2) 環境問題も食糧問題も原因は人間自身にある

4、食糧問題の解決策

- (1) 21世紀は環太平洋時代、真の海洋時代到来の時
- (2) 大量捕獲漁労時代から海洋観光趣味産業時代へ
- (3) 陸上文化文明時代から海洋文化文明時代へ
- (4) 海洋先端技術最先進国家を目指して
- (5) 「一匹の魚をくれた人」と「魚を捕る方法を教えてくれた人」への恩の違いについて語る諺の真の意味



提言 海洋政策13の柱

本誌創刊号で「海洋政策13の柱」を提言いたしました。本号では、提言第一「海洋省の創設」に照準をあて、もっと詳細に考察してみましよう。



提言一 海洋省の創設

国内外の諸問題を根本的に解決するためには「海洋省の創設」が急務です。海に関連する諸問題に対して総合的に迅速に対応処理し、海の膨大な可能性に対する総合開発戦略を構築し、即実行に移すことのできる「海洋省の創立」を提言致します。

人類歴史が始まって以来、人間は、海を避け、陸上にその生活の主軸を置き、海はむしろ生活圏外だと考え、陸上生活を中心に歴史を築いて参りました。つまり人類歴史は地球（事実は海球）上で、陸上偏重型の文明を築き「陸上偏重時代」を生きてきました。今日まで世界の国々は、陸上偏重政策を中心に打ち出し、海洋政策は「つけ焼刃的な政策」でしかありませんでした。これまで海は移動のための航海路、物資を運ぶための輸送路、生活や産業廃棄物の処理場、食糧としての魚介類を職業的に捕るところと考えられてきました。

た。しかし、今日、環境問題はじめ内外の諸問題が行き詰まり、人類史の大転換が求められるデッドエンド（行き止まり）に突き当たっています。その結果、人類はその文明変遷史の中で、「海が死活的に重要な場所」である事を悟るようになりつつあります。陸から海へその視点を大転換する時がきました。

1994年、国際海洋法が成立した頃から、米国人は「陸の終りが生命の始まり」、海が生命の源であるという認識に立ち、圧倒的に多くの人々が生活の主要部分を海におき換えるようになりました。そのような海への価値観の転換が、米国のボートを中心とする海洋レジャー産業の急激な伸張の原因になっています。これまで海は、陸上に付随した様々な手段だと考えられたところから、次第に「海は人間生活の主要場所」と位置づけられるようになっていきます。人間の体の3分の2が水分、特に塩水がその構成要素の核心であり、海が発点だという考えが科学的にも証明されるようになり、健康で長生きするためには、人生の3分2の時間を海で生活することが人間にとって最適であると理解されるようになりつつあります。

まして、人間にとって最も大切な生活要素であ

る食糧の主要部分が海で生息する魚介類であり、人間が食べる食糧の3分の2が海にあるという認識に立脚したとき、人々は、生活の主戦場が海であると考えようになり、全てが逆転するようになって参りました。これまでの海は陸の延長、あるいは陸上生活のための付録という概念から、海が生活の主軸であり、陸は海によって生命が与えられていると考えると、これまでの人類が辿ってきた陸上主体生活を見直さざるを得ません。陸上偏重型の生活概念、文化、文明、法体系、法制備を根本から見直し転換しなければなりません。

しかも、21世紀環太平洋時代の到着期にある日本は、環太平洋圏の代表的な島嶼国家です。島は海と直結しているので、海洋国家日本は、海洋文明、環太平洋文明時代を築くにあたって、その実現の鍵を握る主要国家であることは論ずるまでもなく明らかです。国土国通省とは独立した主体的立場に「海洋省」を立て、日本の政策を海洋に視点を置いて根本から見直し、コペルニクスの大転回を敢行する時です。そのためには、当然その前に主要指導者スタッフ、立法案者は、まず生活の3分の2を海で生活する必要があります。そうしてこそ、海洋に視点を置いた立法案が可能ですが、まず海洋省創設に当たり、考えるべき緊急ポイントは次のとおりです。

一、第一に、早急に日本の海を浄化し本来の海を取り戻す。魚介類の生息環境を復活させる。同時に世界の海の本来化浄化運動に取り組む。

二、特に海岸線の本来化自然化を早急に計る。海岸線の自然を復活させ、魚を寄せつけないコンクリートを全面的に撤廃する。魚が孵化し稚魚が安全に無事に成長することのできる海岸線の環境を早急に復活させる。

三、自然を破壊する防潮堤等を撤廃し、汚染国土浄化作戦を行う。滋養豊かな海を保つために陸上における緑化事業の促進を敢行する。

四、陸上文化文明を前提に建造されてきたこれまでの橋や道路等を、海上文化文明を主体にした橋、道路、河川、海岸線にするために改造し更なる開発を行う。海上交通を主体にした橋、道路に転換する。

五、従来からの水産業（漁協）とスポーツボーディング産業等が調和共生できる政策を策定する。日本の観光政策の柱に海を位置づけ、海洋観光立国の道を早急に開く。

六、明治維新以来おき去りになっていた海の廃藩置県を敢行する。それと共に、海洋

スポーツレジャー産業が200海里全域で活動展開できる拡大政策、並びに全国民が海洋趣味生活を容易に行うことができる拡大政策の策定を早急に行う。欧米で育成された海洋スポーツレジャー産業を導入し、国際的な海洋観光立国をめざす。

七、海洋に関する政策を一元化する。

八、水産業はじめ従来からの海洋関連産業に対する政策を最先進型・未来型に切り換える。日本は世界における海洋リーダー国家をめざす。

九、圧倒的成果が期待できる「海からの防災対策」を一日も早く取り入れ、防災最先進国家をめざす。

十、水は低いところを満たす平準化の特性をもち、海は分け隔てなく繋がりに合っている。海を通して世界平準化思想や超国家・超民族・超宗教の海洋精神を学び、それを実践することができる。海洋教育を教育の主流に据える政策の策定を早急に行う。世界最大の先進的海洋総合大学を設立する。全ての小・中・高・大、各学校の3分の2の教科は、海洋関係であることを義務づける。海を通して世界の平和と繁栄の道を開く。

十一、全指導者層はゴルフ等、陸上での趣味からボーディング、ボートによる海釣り等、海洋趣味生活に趣味を切り換える。指導者自身が海洋精神を体得し、海洋国家日本を牽引する柱となる。

十二、人倫道徳の退廃と対立闘争を基本にし殺戮戦を繰り返してきた人類歴史は既に限界点に到達している。人類歴史の出発点から、実りよりも腐敗、破壊、後退が繰り返されてきた。この陸上偏重・墮落文化文明は、海を基盤にした海洋文化文明によって再生される。具体的には海洋観光趣味産業モデル都市を構築する。それを基盤にして開花する真の環太平洋文化文明により陸上偏重・墮落文化文明を再生することができる。（編集部）

提言【海洋政策13の柱】

1. 海洋省の創設（海洋管轄管理、政策立案、法制備等の一元化）
2. 先進的海洋総合大学の創設
3. 海洋の廃藩置県および新たな海洋開国
4. 海洋の本来化
5. 200海里（370km）海域を一日生活圏にする海洋趣味生活の創造
6. 日本国土建設を、海洋を基盤にした海洋型国土建設政策に大転換
7. 海洋趣味産業型津波防災自由高速道路を、海岸線から約3km内側に建設
8. 海岸線に海と人間との共生地帯を創設
9. 日本全国の青少年の海洋訓練
10. 海洋観光趣味産業モデル都市の建設
11. 海上、海中、海底の資源開発
12. 海洋食糧資源増産のための増殖産業の本格振興
13. 近隣国海洋都市との海洋都市同盟の構築



石巻・真の復興を考える(II) 世界の釣り人集う「田代島世界海洋村」構想

昨年、10月14日、台風一過、空に二重の虹がかかる天候の中で、石巻市中瀬マリーナで各地より多くの参加者が集い、「復興再生支援・ボート完成進水式」が行われました。翌10月15日、私たちチームは石巻市役所の方々と会合を持ち、「石巻・真の復興プロジェクト」について話し合いを持ちました。その会合で、私たちは向こう5年期間内で、海岸線に5万坪の用地を確保し、「石巻海洋観光趣味産業モデル基地」づくりをめざしたい旨をお伝えいたしました。その時、市から「そういう目的であれば田代島がいいのではないか」というアドバイスをいただきました。それを受け、私たちは東京で準備に取り掛かりました。猪狩達夫海洋建築士を中心として石巻・田代島等に関して可能な限りの情報を収集し、それを基に地元の方々と緊密に連絡を取りながら「石巻・田代島世界海洋村構想第一次案」をつくり上げました。地元の方々とは、震災復興のために尽力される「海花東日本復興の会」(会長・今野隆吉宮城県議会議員)の会員の方々、及び石巻市南境民俗芸能保存会事務長の高橋誠志さん、田代島にゃんこ共和国の渡邊

仁悦さんです。本来は石巻湾に「海洋観光趣味産業モデル基地」を建設する方向性でプロジェクト案を進めて参りましたが、石巻湾岸は防潮堤で囲まれるため、そこには候補地がなかったためです。

私たちには、前回、海洋真時代創刊号で発表させていただいた基本構想(「妄想」と建築家仲間では言っていますが)夢があります。今回、私たちはまず、この基本構想を絞り込んでみました。その結果、石巻で有名な「石森章太郎のマンガ館と田代島の猫」を目玉に、日本全国から、世界から人々を呼び込むことを基本戦略としました。言うまでもなく、本命は海です。釣りや海洋レジャーなど、海洋趣味生活を、同時に皆様に体験していただくことが肝要です。知れば知るほど田代島が観光地として大きな可能性を秘めていることがわかります。三陸の大地の恵みを運んで注ぐ北上川の河口に位置し、黒潮と親潮が出合っつくりだす豊かな漁場はすぐ近くです。その漁場は世界で最も魚種が多く、美味で栄養価の高い魚介類が捕れ、そのため石巻の魚市場は東洋一の規模です。石巻湾の西に

は日本三景の中で最も美しい松島があり、東には金華山はじめ金産出地と言われる網地島、歴史的なサンファン・パウティスタ号出航の地月浦や牡鹿半島などがあります。石巻・田代島海域は実に観光資源に溢れています。世界最高の海洋観光地になることは疑う余地がありません。日本復興、世界復興の松明(たいまつ)の地になることは間違いないでしょう。

去る6月3日、4日の両日、猪狩達夫海洋建築士を中心とする「I&世界海洋建築家チーム」が、現地調査のため石巻と田代島を訪ねました。以下はその時の報告です。

A、スケジュール

①6月3日、午前11時より石巻グラウンドホテルで、高橋誠志事務長を囲み、(以下敬称略)I&世界海洋建築家チームの猪狩達夫、矢板久明(同チーム、一級建築士)、矢板直子(同チーム、一級建築士)、堀内道夫(光と風の研究所代表取締役)、佐藤健雄(プロジェクトリ

ダー)、菅原恵子(海花東日本復興の会)、糸坂靖子(同)が第一次案に対する自由討議の場を持ちました。

②その後、午後1時から市役所副市長室で、菅原秀幸副市長を囲み、高橋誠志事務長、猪狩達夫、矢板久明、矢板直子、堀内道夫、佐藤健雄、菅原恵子、糸坂靖子が会議を行いました。まず、猪狩建築士(統括)がプロジェクト全体について説明しました。続いて矢板建築士が、世界では世界各地の民宿に泊まって観光するブームが起きていることを取り上げながら、民宿世界ネットワーク「Airbnb」の紹介をすると、

市の方から、田代島には既に民宿「はま屋」がある

ことが紹介されました。プロジェクトの入口として、そういう方面からであれば、市も協力できるのではないかと話でした。その他、ボート工場や海岸線のプロジェクトについては、県レベルの認可が必要ということでした。現在、田代島には住民も少なく、平均年齢も高く、小学校も中学校も全て閉鎖し、限界村であることが指摘されました。この島は「ネコ」で有名ですが、ネコたちを世話しておられる渡邊仁悦さんは、震災後に仙台から移り住まれたそうです。私たちのプロジェクト展開のための環境が整いつつあることが確認されました。様々な角度から検討することができ、非常に有益な会合でした。

③その後、高橋事務長と別れ、午後4時にグランドホテルに戻り、東北放送ラジオ局長の若生哲旺氏とプロジェクトについて話し合いました。氏は猪狩建築士と同じ早稲田大学出身。東北放送報道制作局長を歴任し、東北大震災を支援し、特に石巻復興を報道し支援してきました。しかし、今は復興が余りにも遅く、自分自身金属疲労を起こしてしまつたと嘆いておられました。さすがに田代島のこと等にも詳しく、今後私たちのプロジェクトを応援することについては、やぶさかではないと話しておられました。



④翌4日、午前9時から桃浦漁業特区「桃浦かき生産者合同会社」の実務者であり現場責任者の大山勝幸さんを訪ねました。大山さんはお忙しい中、私たちの様々な質問に答えて下さいました。ここは、田代島のかき養殖場とは直接的な関係はないのですが、非常に参考になりました。



⑤その後、サンファン・パウティスタ号を視察し、ここも大切な観光地であることを確認いたしました。

⑥その後、午前12時発の網地島フェリーで田代島に向かいました。島のほぼ中央に猫神社(島の宝100景)があります。猫は大漁を招くと言われ、昔から大切に

されていたそうです。この日は、昨日の視察チームに加えて、石巻から菊池紀子さんが合流してフェリーに乗り込みました。菊池さんは海花東日本復興の会の会員ですが、「サンファン音頭」の歌詞を作った歌人で、現地では勿論、国際的にも菊池さんの和歌が発表されています。石巻・田代島間を結ぶフェリーの所要時間は、現在約45分ですが、近い将来、もっと高速になり、25分ぐらいで行けるようになるそうです。田代島の大泊港で下船すると、その前が民宿「はま屋」さんでした。オーナーの濱温(はまゆたか)さんと田代島にゃんこ共和国の渡邊仁悦さんが、自動車を用意して待っていてくださいました。早速、はま屋に伺い、猪狩建築士と堀内さんから熱心に私たちの考え方や、構想等を説明させていただきました。お二人は非常に喜んで下さり、プロジェクトの殆どは実現可能であると思えました。



ひと時、懇談会を持った後、渡邊さんの運転で島全体を案内していただきました。マンガロツジや猫神社、仁斗田(にとだ)港等、歴史も含めて説明し案内してくださいました。田代島から、牡鹿半島、網地島、石巻本土に囲まれた海域は素晴らしく、大きな希望を感じました。午後3時のフリーに乗り込み、田代島を後にしました。田代島を訪れる観光客も多く、この日350人乗りのマーメイド(船)は一杯でした。観光客とも交流しながら田代島を後にしました。



B、石巻・田代島世界海洋村構想第一次案

I & 世界海洋建築家チーム

1、開発の方針

・徹底して「海」を活用する。島の利点を生かす。即ち、島の東側、大泊港と仁斗

田港間(約900m)の海岸線に沿って、水深7メートルから14メートルの海域を、「浮島方式」及び「着床式」で二港を繋ぐ形の「コンパクトまちづくり」を行う。島の主要産業である「かき養殖場」ゾーンは避ける。

・島の周囲は、港湾部以外は殆どの部分が5メートルから20メートル高さの崖になっているため、基本的に一切海浜造成は行わず、崖地はそのままの景観を生かす。但し内陸中央に一部宅造を行う。

・島のほぼ中央鞍部の東西に延びた带状の住宅地(約6ヘクタール)を形成する。一方で、早急に大泊港および仁斗田港最寄りの場所に、まずバーベキューハウス(各々10室程度宿泊所付き)をセッティング。これによって田代島「海の醍醐味」を世界に知らせるためのスタートを切る。

・島の東岸中央に仁斗田貝塚がある。古代人が温暖な当島に好んで住んだ跡。出来るだけ、既存集落、既存住宅建物を生かし、家屋は修復・増改築して民宿として使えるようにする。(国の当該新事業を活用)。

・「世界海洋村」の受け入れ対象は日本全国からだけでなく、仙台国際空港を経由して訪れる「世界の海洋族・マリンスポーツ愛好者」も対象として歓迎する。(マリンスパ「タラソテラピー」開発設置の他、温泉堀削も検討)

2、開発コンセプト

・伊達イズム(独眼流精神)を生かし、政宗三シンボル(①家紋九曜マーク②弦月兜モニュメント③貞山堀)を開発地にセット。つねに当プロジェクトが陣頭に立ち、全東北を鼓舞するものとする。

・当島のほぼ中央に全国的に有名な「猫神社」、「田代島にゃんこ共和国」(今年5/13NHK放映)、また、市立「マンガアイランドキャンプ場」がある。このキャンプ場は、石巻市中心にある「石ノ森萬画館」との連携施設となっている。従って「ネコ」と「マンガ」テーマを軸にイメージ展開を図り、世界へアピールする。

・当島は、「里山資本主義(藻谷方式)」の考え方を導入、石巻市民・田代島市民のパワーを結集して海洋村づくりを行う。当島のエネルギーはすべて「自給」を旨とし、水素エネルギー、バイオ、地熱、太陽エネルギー、風力、潮流等、徹底した自然エネルギー活用に基づくものとする。

3、田代島の現況

①面積：3.14平方km、全周：11.5平方km

②人口：2014年12月現在82人(65歳以上62人) 子供0人(以前200人位) 2011.3.11 大津波死者なし、行方不明一人

③漁業が主な産業、大津波後、かき養殖をやめていたが最近再開(今年5/13

NHK放映)

④交通アクセス

海路：1日3便 石巻港まで46分(約15km)

陸路：牡鹿半島経由 約1時間30分(30km)

※漁場としては、世界的大漁場としての金華山沖が10km沖合にある。三陸海岸漁場のスタートポイントになっている。

⑤観光：石巻市石ノ森萬画館、サンファン・パウティスタ号(サンファン館ミュージアム)、おしかホエールランド、御番所公園(江戸時代の鯨船見張所)等との連携。観光ネットワーク化を図る。

4、田代島基本計画

①海洋村計画(マリン基地計画)

大泊港と仁斗田港を結ぶ約900mをブリッジ状に結ぶ人口地盤(おおむね着床式)とこれに派生する棧橋船着場(ポーンツーン式)によるもの。規模は当初4ヘクタール、延8ヘクタール

・インフラ・施設計画(主として東部浮島地区)ノオープンボードデッキ(一部フィッシュャーマンズウォルフ・海鮮市場・ブリッジ)・海浜広場(イベント広場)・ショッピングモール・モニュメント・マリンショップ・マリニンググッズ・ボート展示場・ボート工場・オープンボート展示場・タラソテラピー温浴施設・海鮮レストラン

ン・ヨーロッパアンショップ・地元みやげ店・生鮮食品店・アスレチックジム・フィットネスクラブ・サービスマイル・パーク・キングスペース・水上ホテル（水上住宅）・ユースホステル（島上部地区）・温泉ホテル（地上・将来計画）・海中展望台（海上展望台）・救急医療センター

以上を市・島の現状と今後の必要性と緊急度に合わせて、ドーム、及びデッキブリッジに装着するものとする。

・緊急時避難斜路（幅5m）の設置。海浜広場と島上部を繋いだもの（20m）。上部避難広場には「みんなの家」を構築する。以上地域地元住民の総意に基づくもの。

②エトワシステム住宅地計画（菜園付きエコハウス住宅計画）

・海洋村プロジェクトの一環として、内陸中央鞍部のゆるい斜面地に約130戸菜園付きの定住型エコハウスを計画。これには、近傍の牡鹿半島に多数ある仮設住宅地の被災者を優先的に入居出来るよう配慮。また、市外からの人々も歓迎したい。

5、「田代島近未来の姿」が導火線となり東北被災地全体を復興再生する。

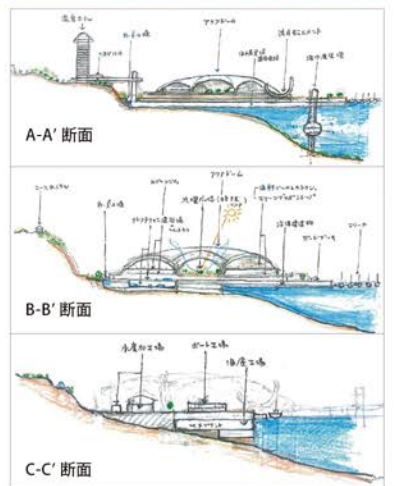
東北の基幹都市である石巻市沖の田



石巻田代島・世界海洋村(wov)構想

代島は、3・11以前は年間1万人の観光客があった。島訪問客・滞在客を倍増させるために、民宿・プチホテル等のセッティングが必要。一方、田代島行船便の本数を増やし、船の速度のスピードアップが望まれる。

当該海域が世界的好漁場とされる所以は、日本海流（黒潮）と千島海流（親潮）の二大海流が会おうばかりでなく、日本海を北上する対馬海流がリマン海流と合流して津軽海峡を通過して三陸沖を南下し、金華山沖で三つの海流がぶつかり合うことにある。とくに親潮は、幅



A-A' 断面

B-B' 断面

C-C' 断面

広い海流で栄養に富みプランクトンが豊富だといふ。そのために集まる魚種が極めて多いことで有名。ここは「地域産業漁業の漁場」であると同時に「世界の釣人のメッカ」であっても良いはずである。「田代島世界海洋村」は正に近い将来、世界の釣人が集う基地になることにより「東北震災復興」のモデル地域として現出されるに違いない。

6、LAS&RISM(災害支援艦兼大型観光船)―田代島地先から日本列島を救う。

昨今、地震、火山噴火多発の危機迫る日本列島にあつて、LAS&RISM「新・海の駅」(内閣官房和泉補佐官預り中)を松島沖に、続いて、石巻沖・田代島地先1kmに安置させることが必須である。

以上のように、田代島世界海洋村構想は、今後、Airbnb方式(民宿世界ネッ

トワーク)等を通して、地元の方々と調和しながら一歩を踏み出しました。今回の視察路程でも多くの道が開けたように思います。私たちは「東北復興を世界復興の松明(たいまつ)にしよう!」「地方創世は海洋創世!」のゴールを高く掲げています。日本の国を愛し、世界平和を願う志ある方々と夢を共有しながら、私たちのプロジェクトは、確実に実現に向かって前進しています。

(I&世界海洋建築家チーム)



石巻田代島・世界海洋村(wov) ちょうかんイメージ



心で求める理想郷 パラグアイ

6月27日、千代田区平河町都市センターホテルで、「日本・パラグアイ圓母平愛友好協会」創立記念講演会が行われます。本誌創刊号では、この友好協会創立の趣旨や目的についてご紹介いたしましたでしたが、本号では「パラグアイとは一体どんな国」か、共に訪ねてみることにいたしましょう。

豊かな水資源 地政学的要衝の地

パラグアイ共和国は面積約40万平方km（日本の約1.1倍）、人口約700万人の国です。国土の真ん

中を大陸の大動脈、全長2600kmのパラグアイ川が悠々と流れ、南はパラナ川、北はアマゾン川に結ばれています。三つの川を結んで、大西洋からカリブ海へ抜ける航路が既に計画されており、その実現は時間の問題です。歴史的にも将来的にもパラグアイは南米大陸の要衝の地です。パラグアイに張り出したパンタ

ナール大湿原はアマゾン地帯と合わせれば、地球上の酸素の3分の2を生み出すために「地球の肺」と呼ばれ、近年になって70億人類を200年間飲ませることが出来る自然の水瓶が発見されました。パラグアイ川は雨期には対岸が見えなくなり、川というよりまるで海。世界最大のイグアスの滝、世界最大のイタイプーダムなど、どの観点からみても南米大陸のスケールの広大さには誰しも驚きます。

昔からインディオ達は漁を行い、パラグアイ川の恵みで生きてきましたが、最近では、パラグアイは、牧畜業、木材、マテ茶の生産を中心とする牧畜国です。1930年代から入植したドイツ人や日本人たちの影響を受け、近代農業が発達。他に主要産物は大豆、トウモロコシ、綿花、小麦、マンジョーカ、柑橘類、牛

肉、葉タバコなど。中でも大豆は現在世界第4位の生産量を誇っています。

縄文人が南米へ 蒙古斑をもつ人々

パラグアイの先住民は、約12000年前ペーリング海峡を渡って、アジアから南米に渡ってきたモンゴロイドといわれています。パラグアイ国民の90%以上が日本人と同じモンゴロイド系。グアラニー族などインディオの血が濃く、スペイン人との混血で蒙古斑の持ち主です。モンゴロイドというだけでも、親近感を感ずるには充分ですが、驚いたことに、南太平洋諸島や南米西海岸で、近年になって縄文式土器が発見され、南米インディオの先祖は縄文人、日本人だったかもしれないという調査結果が、1990年代に次々と発表され日本中を驚かせました。しかもその縄文人たちは、先進的な航海術で黒潮流流に乗り太平洋を渡って南米に到着し、マヤ・アステカ・インカ文明をつくった「海の民」だったのです。

ともあれ、新大陸発見により南米インディオの平和な世界も、スペイン・ポルトガルによる欲望の嵐によって破壊されます。1537年、スペイン人が金銀の山を探すため、現在のアスンシオン市に基地を建設。当時その地域はグアラニー族達の平和な楽園でした。パラグアイ地域にもスペイン人が侵略してきたのですが、当時、農耕を営んでいたグアラニー族は文化程度も高く、スペイン人との同盟により他のインディオとの対決力を増そうと考え、スペイン人もこれを受け入れ両者の間に混血が進みました。パラグアイは「大きな川から」という意味で、アスンシオンの意味



は「昇天・昇華」という意味。当時アスンシオンは「母なる都」とも呼ばれ、南米史上初の船や電車もここでつくられました。

理想郷をつくったグアラニー族

ここで、注目すべきことはパラグアイに建設された「伝道村」です。1608年、スペインから来たイエズス会宣教師が、グアラニー族達を改宗し、文化教育を与える場所として「ミッシヨン」と呼ばれる伝道村を建設。ここにバナナやキャッサバのプランテーションを作り、様々な工場を整え、それを完全な分担作業に振り分け、素晴らしい組織体制を築きました。パラグアイという未開の地に、「理想郷」「南米の楽園」とも言われるほどの驚くべき共同社会が出現したのです。当時、そこでは、宣教師たちに教育されたグアラニー族達が、ヨーロッパ式の先進的な建築物を建て、バイオリンやギター、アルパ（ハープ）を造り、コーラスで賛美歌を歌い、ヨーロッパ人を驚かせる教養と技術水準をもつようになりました。ヨーロッパ向けに楽器などの輸出も行い、自主自立の独立国家をつくり150年近く平和な生活を維持したのです。



しかしこの平和は長くは続きませんでした。その頃、ポルトガル領ブラジルでは、労働力を集めるために奴隷狩りを行い、グアラニー族も狙われ、イエズス会の伝道村は、奴隷商人から



逃げるインディオ達を保護する場所となりました。この奴隷刈りはポルトガルとスペインの領土紛争に発展し、ついに伝道村は解散されることとなります。これに反対したグアラニー族は、1750年、ポルトガル・スペインの連合軍を相手に、「グアラニー戦争」を起こし玉碎するまで闘ったといえます。結局、1768年、グアラニー族はスペイン・ポルトガルの直轄下に置かれ、目を見張るような文化文明を形成していた南米の理想郷は、ジャングルの中の遺跡となつてしまったのです。

南米で最も凄惨な三国同盟戦争

その後、パラグアイ州は1811年、パラグアイ共和国として、南米では最初に独立を果たします。

1814年に執政官として就任したホセ・フランシスは、鎖国政策と土地の公有地化を進めます。一方では、スペイン人とグアラニー族との集団結婚を政策的に推進し、そのやり方は独裁政治であり、反対する者にとつては恐怖政治でした。しかし継続的に内戦下にあった他の南米諸国とは対照的に、政治的には安定を

保ち、義務教育も行われ、当時の旅行者が「パラグアイでは盗人も飢えた者もいなかった」という程度でした。

1844年にカルロス・ロペスが初代大統領に就任し、鎖国政策を解いて開放政策を行い、一躍近代化が始まります。国土の98%の公有地を利用してマテ茶やタバコなどを栽培し、保護貿易によって莫大な黒字を上げます。カルロス・ロペスはこの貿易黒字を元手に、鑄鉄工場や火砲工場を建設し、ヨーロッパに留學生を送り、1861年にはアスンシオンに鉄道を開通させます。こうしてパラグアイは南米で唯一、対外債務を負っていない国として自立的な発展を続けます。しかし、その治世の後半から、隣国からの圧力と内政干渉が激しくなり、アルゼンチンとの戦争も起き、周辺国からの外圧が脅威になっていきます。

1864年、ブラジルとアルゼンチンの内政干渉に悩むウルグアイを救援するため、フランシスコ・ロペス大統領はブラジルに侵攻し、南米で最も凄惨な戦争となった「三国同盟戦争」に突入してしまいます。かねてからパラグアイの発展を好ましく思っていないかった英国資本が、ブラジル・アルゼンチン・ウルグアイを支援したために三国同盟が結成され、同盟軍はパラグアイに侵攻します。三方から攻められたパラグアイ軍は全滅するまで勇敢に戦います。ロペス大統領は、「私は祖国と共に死ぬ」といって戦死。勝ちに乗じた同盟軍は、パラグアイ人を根絶やしにしようとして、アスンシオンの対岸チャコイ地区に子供を含めた全ての男子を集めて殺



そうとします。この時、米国のラザフォード・ヘイズ第19代大統領が、そこまでやってはいけないとストツプをかけ、絶滅の危機からパラグアイを救いました。米国はパラグアイ人の勇気と愛国心に感動していたのです。現在、その舞台となったチャコイの州の名前は、ヘイズの名前に因んでプレジデント・ヘイズ州

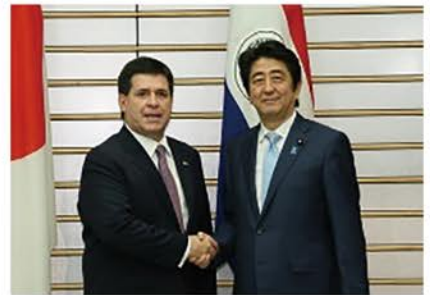


(ヘイズ大統領州)、市の名前はプレジデント・ヘイズ市と名付けられ、知事や市長の写真よりも大きな、恩人ヘイズ大統領の肖像画が、市庁舎に今もなお高く掲げられています。

1870年、敗戦の結果、パラグアイはブラジルとアルゼンチンに国土の4分の1を割譲し、開戦前の52万人の人口は21万人にまで減少します。9割とも言われる男性人口を失い、敗戦と共にパラグアイは国民のみならず、国土、工場、経済的独立の全てを失います。これ以後50年にわたり国勢は停滞し現在に至るまで傷跡が残っています。

際立つグアラニー族の勇氣、愛国心、正義感

ここで際立って印象深いことはグアラニー族の勇氣、愛国心と正義感です。イエズス会を受け入れ、高度な技術力を啓発して自主独立の理想郷をつくりました。伝道村を守るために戦い、他国からの内政干渉や自国の発展に圧力をかける不正に対しては、玉碎するまで戦い続けるグアラニー族の精神は、どこか日本人と共通しています。和を重んじながら生き残るためと



はいえ、混血政策を押し進めたところも先進性を感じさせます。結局、人類は根元を同じくする一家族だからです。現在のパラグアイ人にはこのグアラニー族の血が流れ、それをパラグアイ人は誇りに思っています。

その後、軍事政権が続きます。1993年になつてようやく文民政権カルロス・ワスモシ政権が誕生。しかしクーデターが起き、再び軍事政権が立ちます。ようやく民主主義的な政権が立ったのは、2003年、ニカノル・フルトス大統領の時です。

2008年にフェルナンド・ルゴ大統領が立ち、61年間続いたコロラド党の政権はここで中断。しかしルゴ大統領は、治安悪化の責任を弾劾され辞任します。2013年8月15日、最も成功したパラグアイ実業家の一人、コロラド党のオラシオ・カルテス氏が大統領に就任。カルテス大統領は、昨年6月23日に来日し天皇陛下に拝謁し、25日、安倍晋三首相と会談し、「日本パラグアイ共同声明」を発表。日本とパラグアイの親善関係が国レベルでも一段と深まっています。

「地球規模の理想郷」を力を合わせて実現

パラグアイは不思議に人々を惹きつける国です。多くの冒険家や思想家、宗教家が引き寄せられるようにパラグアイに辿り着き、根を降ろしてパラグアイを終

生の地としています。周辺国から移住してきたり、仕事で来た人々がこの国に愛着を感じ、生涯忘れられない国になっていきます。パラグアイは、なぜか懐かしい「ふるさと」のようなところ、人々が心の奥底で求めている「理想郷をつくるにふさわしいところ」です。日本人が失いつつある大切なもの、はるか昔の先祖の温もりを感じさせるところ、そんな国がパラグアイです。

6月27日の「日本・パラグアイ圓母平愛友好協会」創立記念講演会は、蒙古斑同族として同じ先祖を持つ二つの国が、環太平洋時代到着のこの時に再び出会い、「地球規模の理想郷」を力を合わせて実現していく誓いの場です。希望に向かって歴史が大きく動く一日となるに違いありません。

写真提供・ABCコロール紙 内閣広報室 (飯島)





日本人と南北米先住民の先祖は同じ

「日本人にはもともと海洋民族としてのDNAがあるに違いない」と思っていた矢先、『海を越えた』という言葉が目飛び込んできた。1999年、テレビ東京は、開局35周年記念番組として、仲達達矢氏をレポーターとして立て一年間現地取材し、「もうひとつの海のシルクロード・ネシアの旅人」として放映。その報告の詳細をまとめた本『海を越えた縄文人』と出会ったのである。

プロデューサーの田淵俊彦氏はまえがきの中で、「21世紀という新しい時代の扉が、今まさに開かれようとしている。グローバル化の中で、日本という国も、われわれ日本人も、大きく揺さぶられ、自信なげに右往左往している。迷った時には原点を問い直すというのが鉄則だ。日本人の

原点を辿れば『縄文』に行き着く。縄文人といえば、「原始人」というイメージだった。しかし、遺跡の発掘が進む中、縄文人は、今から1万6500年も前に、人類最初の土器を発明し、6000年前には稲作を行っていたことがわかってきた。巧みに船を操り、日本近海で漁をするだけでなく、自由に交易していたらしい。最も壮大で魅力的な仮説は、『縄文人が太平洋を越えて、遙か南米大陸まで到達していたのではないか』というものだ。われわれの先祖である縄文人は、尽きることのない好奇心と、困難に立ち向かう勇氣、そして柔軟な知恵を備えた人たちだった。彼らの生き方は、われわれ日本人がどこへ進むべきか示唆しているように思う。「海を越えた縄文人」まえがきより抜粋・引用)と述べている。

本の目次を見てみよう。「縄文人は先進的な『海の民』だった」「動力もコンパスもない伝統航海術で、荒波を乗り越える」「日本人を先祖と信じる人々」「ポリネシアに残された縄文人の痕跡」「大航海の最終到達地点・南米で縄文の魂と出会う」「正に刺激的な内容ばかりである」では、その内容を紙面が許す限り、ポイントだけになるが共に追っていく。

1996年8月14日、日本中を驚かせるニュースが報道された。「南太平洋の彼方、バヌアツ共和国のエファテ島で発掘された土器が、5000年前に日本で作られた縄文土器だったと断定されたというのだ。日本の遙か遠く離れた南の島に、一体なぜ、縄文土器があったのか。」

ことの起こりは、「フランスの考古学者ガランジェ博士が、エファテ島で、40点の古い土器片を発掘し、論文に発表した。その写真をみた篠達喜彦博士が(太平洋考古学)「これは縄文土器ではないか」と驚き調査が始まった。追跡調査は日米仏の3カ国チームで行われ、縄文土器と酷似していると判断された。土器のうち、独特の羽状縄文などが見受けられる3点について、東北大学の芹沢長介名教授

授(考古学)に見せたところ、たしかに三内丸山遺跡など、東北地方に多い、縄文前期の円筒下層C・D式土器であるとの鑑定を受けた。更に、米国アリソナ大学太平洋土器分析の権威ウィリアム・テイキンソン博士(地質学)に成分分析を依頼したところ、土器片は、バヌアツには存在しない鉱物添加物を含んでおり、しかもそれは青森県出土の典型的な円筒下層式土器の鉱物添加物と組成、量とも一致するとの判定を受けた。年代測定では約5000年前のものであることが判明。」

「縄文土器が持ち込まれた可能性があるのは、エファテ島だけではなく、パプア・ニューギニアの古代土器全般に関して、縄文早期(二万年前以降)の土器文様に酷似しているものがあると指摘されてきた。縄文土器の海外伝播は、ネシア海域だけではなく、南米大陸にも伝わっていたのである。南米エクアドルのバルディビア遺跡(約5200年前)4000年前からも縄文土器の影響を色濃く受けたとしか思えない遺物がたくさん出土しているのである。縄文人と南北両アメリカ大陸の先住民は、ともにアジア系モンゴロイド人種に属する。1980年代以降、急速に進歩した遺伝子研究によって、日本人とアメリカ先住民は、2万1000年前から1万4000年前に、共通の先祖から枝分かれしたことがわかった。この事実は、日本列島を含む東北アジアの先住民の一部が、氷河期の最盛期から終末期にかけて、南北アメリカへ、何らかの方法で移動したことを意味している。」

その移動した方法とは、本書では、「縄文人たちは黒潮の潮流に乗って、船で南米大陸まで旅をしたというのである。そして、縄文文化は世界最古の土器文明であっただけでなく、世界一の先進文化だった」というのである。(続く)

(テレビ東京編「海を越えた縄文人」祥伝社1999年 一部引用)



世界の釣り

日本の釣り

人生の新たな船出

山口県周南市 佐藤 健

海を知らなかった 私に転機

私は山に生まれ山に育ちました。海は知らなかったのです。父と結婚した後にはじめて初めて仙台の松島を見た私の母は、海に浮かぶ島を見ながら、なんと大きな河だべ〜!と思わず呟いたと聞いています。そんな母から生まれた私は、海といえ九十九里浜で溺れかかった思い出や得体の知れない小魚に触って三日間指先の激痛と痺れに苦しんだ痛い思い出など、海は怖い恐ろしいという感が強く、海

は岸から眺めるものとの思いしか持てない男でした。

そんな私に出会いと転機がやって来たのが3年前の2012年4月、その人の名前も同姓の佐藤健雄。彼は福島、私は岩手、大学の先輩に当たる伝説の男でありボート事業を世界的に展開する人物でした。初めて出会った私を見つけて彼は熱く語ります。パラグアイにプレジャーボートの工場をつくり、日本や世界に販売し、環太平洋時代の幕開けを作る。...雨降る東京都心のスターバックスコーピー

は行き場を失った人々でこた返していましたが、その人は誰彼を気にする様子もなく、理解に戸惑う私に熱く語り続けました。その年の6月、海に何の思いもなく86歳で他界した母の葬儀の前日に、私はパラグアイ産プレジャーボート Good Goの頭金を、妻を介して(株)海洋平和に届けたのです。

海は驚きに満ちた 自由の天地

あれから3年、伝説の人は遂に現実的に、パラグアイ産28フィートのプレジャーボート Good Goを太平洋を越えて日本の地まで送り届けました。その船は今年3月、山口県周南市にあるシーホースマリナを母港とし、瀬戸内の海に就航するに到ったのです。この船にこわごわ恐る恐る乗りながら、3日目にして最初に釣れた魚が15センチ程のメバルでした。大海で巨大マグロとファイティングできる能力を秘めて開発された Good Goであるにも拘わらず、乗り手によってはこの船も不甲斐なかるう。...わざわざ太平洋を越えてやって来てメバルですか? ...と船の嘆きも感じつつ、メバル1匹を海に返したのです。しかし、この私が船に乗って海に出るとは...しかも海の只中で魚を釣るとは...。一つの出会いと出来事が、海を身近に生活をした経験のない私に、62年の人生を一期として新たな船出を導いたのでした。

それにしても海で魚釣りをして素朴に



驚いた事があります。海ではどこでどんな魚を釣っても誰にも何の文句も言われないうです。これにはある意味で驚きです。陸では隣の畑のキュウリも採れず、他人の家のトマトならばどんなに美味しそうに実っていても無断で採れば泥棒です。しかし海でどんな魚を釣ったとしても、それは私のものだ、この泥棒め、返せ!と言うものが誰もいません。これを釣ったとして陸に上げれば、その魚の所有権は自分のものです。餌をやったわけでも育てたわけでもないのに、どうして社会はそれを自分のものとして認めてくれるのか不思議な世界です。その様に思えば、海は神様だけが支配する自由の天地と言えるでしょう。

何れ、海での生活が始まりました。我が人生において不思議な展開です。 Good Goは不思議な船です。海を知らない私を海に導きました。経験と技術と知識と感覚と分析が必要な大海に、未熟で知識な者を放り込んでくれたのです。

如何なる情熱が自分を未知の領域に駆り立てたのか今でも計り知れませんが、今でも時折、雨の夜のスターバックスを思い出します。佐藤繋がりの縁なのでしょう

か？何故私がバラグアイ産第1号のGood Goを操縦しているのでしょうか？船にメバルの数を数えては、天にマグロの魂を訊ねる思いです。

包み込む優しさと 力強さに満ちた船

それにしてもGood Goは美しいボートです。他のプレジャーボートと比べてみても決して引けを取りません。いろんな飾



りも無くシンプルな姿なのですが、必要なものが全て整えられている感じがします。他のプレジャーボートがゴージャスを売りにするとしたなら、Good Goは清楚な百合の花です。しかしハル全体のその形状の美しさは完全に確かなものです。船首のピークヘッドからキールへと伸びる曲線の美しさ、チャインの角度と広がりによりフティンゲストレーキとの線のバランス、一つの形状を定めるまでにどれ程の情熱と努力が注ぎ込まれたことでしょうか。その姿は波を切り裂く鋭利な刃物のようでありながらも、乗る者を包み込む優しさと力強さに満ちています。

船に少し慣れてきた頃、メバルのみならずこの船に相応しい魚を乗せてあげたい思いに駆られました。マグロの夢を追いつつも、せめて真鯛なりと早くGood Goの船体に乗せてあげなければと、早朝の瀬戸内の海に乗り出しました。その朝、天は、55センチの真鯛を釣らせてくれました。食い込むリールの竿を立て、海から浮かび上がる初めての大きな真鯛をタモに取り込み、その魚をGood Goの船体に横たえて天に感謝と感動の思いを捧げました。

海には無限の恵みがあります。深い愛の胎動の中で、全ての生命を生み出す恐ろげきエネルギーに満ちた世界です。学んで行きたいものです。その学びの中でマグロまで行き着いたならどれ程Good Goが喜ぶことでしょうか。この船に相応しいキャプテンへの道に航海の舵を取って行きたいものです。

光輝く海に出てみよう！

人生初めての 素晴らしいボート

静岡県浜名湖でボートクルージングや海釣りを家族友人たちと楽しんでいきます。ボートはGood Go E180、私たちが初めて購入したボートです。長さ18フィート、ファイバーグラス製で波の中で白く輝き、32ノット(時速60km)のスピードで、大きな波も真一文字に切り開いて進みます。特別な船底デザインのために、横揺れが少なく安定性が抜群。急に波が出てきても安心です。安心して乗れる絶対不沈の安心安全ボートです。



静岡県浜松市 二橋 桂子

115馬力のエンジンは、船を力強く推進させ、船は波の上を快適に疾走します。8人乗りですが、40人乗っても沈まないほどの浮力が魅力です。私たち家族はこのボートが美しいばかりでなく、安心して、たくさん家族友人と一緒に海を楽しむことができるボートであることが素晴らしいと思っています。Good Goとの出会いは、私たちの人生を大きく変えました。海に出ることを楽しみに変えてくれました。さて、ボート自慢はこのくらいにして、これまでの経緯をご紹介いたしましょう。

夫婦一緒に小型船舶 一級免許取得

私は、遠州灘という海岸の近くに住んでいます。今まで海岸を散歩するくらいで、海に出たことも、ましてボートで海に出たこともなかったのです。そんな私がどうしてボートを購入して海に出たいと思うようになったかと思われませんか。それは、夫が定年になる直前に起きた東日本大震災の頃でした。夫が定年になったら一緒に過ごす時間を取りたいと思ったことがきっかけでした。夫婦のこと、家族のこと、親族のこと、今のままでよいのかと考えました。

大震災が起こり、宮城県災害ボランティア

ティアに参加するなかで、東日本大震災のために本当に役立つことをしたいと思いました。そのような時、宮城県石巻市で、東北復興のために必要で重要なボート造りを始めると聞きました。大地震、大津波、大震災で痛ましい石巻市門脇地区に建てるボート工場のために役立つならばと考え、18フィートのボートを注文しました。今思えば、このことが海に出かけるきっかけだったと思います。

ボートの完成を待つ、2014年6月13日、小型船舶操縦免許1級を夫婦で取得いたしました。これまでボートに乗ったことのない者たちが、しかも1級を受



験するのも珍しく、女性が受験することは更に珍しく、夫婦揃って受験することは殆どあり得ないこととして珍しく、私たち夫婦の免許取得はマリナーの話題になりました。一緒に受験した男性も「夫婦一緒にいいね」というほどに、夫婦で参加する輪が広がることとなりました。

海に出る楽しさと喜び

2014年10月14日、石巻で私たちのボートの完成進水式が行われ、翌年1月10日、浜名湖にGood Go ET180を浮かべることができました。さっそく息子たちや孫たち、親族たちと初めてのクルージングをしました。潮風を受けながら、空の広さ高さに清々しさを感じ、目の水平線は360度の円形に広がり、海の雄大さに息を吞みます。太陽の眩しさと輝く水面、しぶきを受け波を切って走る爽快感、船尾に広がる白い波、いつまで見ても見飽きることはありません。跳ね踊る魚や、ほんの数メートル近くで餌を食べる海鳥たちを見ることが出来ます。

少し乗っただけでも体全体の快い疲労感と共に、自然のエネルギーをたつぷりと吸収した心と体があり、すっきりした頭を感じる事ができます。ボートに患者を乗せて治療する病院もあると聞きます。ボート上では体幹の筋肉が使われ、有酸素運動はマラソン以上であり、バランスを取ろうとして体全体の筋肉が使われ、自ら整体をして本来の人間の形に治して

いるとも聞きました。何はともあれ、ボートに乗れば気分は晴ればれ、また乗りたくなります。どうせ乗るならと知人を誘い、乗せて喜ばれています。喜ばせるのも楽しみなのです。

カジキマグロを釣ってみたい

「カジキマグロを釣ってみたいなあ...」
「カジキねらいのビルフィッシュトーナメントが浜名湖で毎年開かれています。遠州灘沖には黒潮が流れており、カジキ、ハマチ、ブリ、カツオなどの大物釣りも楽しめ

米国アラスカ州コディアック島でのスポーツフィッシング

キャプテン・クリス・フィアラ

豊かな海と大型魚 多彩な釣り

キャプテン・クリス・フィアラは1990年から、米国アラスカ州のコディアック島で、スポーツ・チャーターを営んできた釣り師の中の釣り師。コディアック島は人口6000人余りの町で軍事基地があり、欧米人の他にアジア人やネイティブ・アメリカン(アメリカ先住民)も多数住んでいる。この島は漁業の他に、およそ3500頭のコディアック・ベア(熊)が生息していることでも有名。川沿いや町を歩いていると、たまに熊に遭遇することもあっていう。コディアックの釣りについてキャプテン・クリスに話を聞いてみました。

「アラスカで釣れる魚の種類は比較的多くはありません。その代り、遠くの大陸縁部から栄養素をアラスカに運んでくる深海流や、湧昇現象のおかげで、コディアック島近辺の海域は、北太平洋の栄養豊富な海域に属し、大量のバイオマスと豊富な魚に恵まれています。この海域は地球上に数カ所しかない規模の海洋資源の宝庫です。」

釣り師がターゲットとする魚は、重さ180キロにも達するオヒョウ/パシフィックハリバットや5種類の鮭です。現地ではチヌークと呼ばれるキングサーモン、コーホーと呼ばれるシルバーサーモン、ソカイと呼ばれるレッドサーモン/紅鮭、ハンパバクと呼ばれるピンクサーモンなどがあります。他にキンムツと30種ほどのロックフィッシュなどがあります。

タラもチャーターで狙うことも稀にありますが、通常、スポーツフィッシュのターゲットとは見なされていません。オシヨロコマ(カラフトイワナ)や数種のニジマス(スチールヘッドや海種)は川釣りで人気のある魚です。

釣り師達は多彩な釣り方法を使います。餌釣り、ジギング釣り(疑似餌釣り)、海でのトローリング、川でのスピニングやフライフィッシングなど。特に大きなオヒョウ釣りは、ボートのアンカーを下ろし、海床に餌を浸漬(しんじ)することによって釣りあげます。」

幻想的な大自然と エキサイティングな 釣り

「海釣りは一年中することができ、暖かい夏のシーズンは一番人気があります。夏になるとオヒョウは浅瀬に移動し、鮭も近くの岬に集まる小魚を食べるために、同じように岬に集まってきます。」

コディアックは幽玄な大自然に恵まれ、訪れた人々はこの世とは思えない感動を



覚える美しい場所です。大型魚に恵まれた釣り環境の豊かなコディアックには、幻想的な場所でのエキサイティングな釣りを求める釣り師たちが、毎年世界中から惹き寄せられるように集まっています。クジラ、アザラシ、アシカやラッコ、奇妙なツノメドリなどが、ボート間近を遊泳し挨拶に来たり、岩場でゆったりと遊ぶ姿をみせて歓迎し、釣り人にユニークで忘れがたい体験を提供してくれます。

このように、ダイ・ハードな(命知らずの)釣り師たちが毎年この場所に戻って

る一方で、野生動物の見学ついでに周辺の釣りを楽しんで帰っていく、一回きりの観光者も多数います。一般的にはこれらの観光者もコディアックに夢中になり、再び戻ってくる人が多いのです。

私たちは1990年以來、今日まで25年間、このコディアックでスポーツ・チャーター業界を開拓してきました。もちろん最初の10年間はとても厳しい状況でした。今となつては、コディアック自体が自然に人を惹きつけるので、特に宣伝する必要がない状況です。お客様たちには、可能な限り、最高の経験を提供できるように努力しています。殆どのお客様は多年草です」

将来の世代のために 自然保護の基準を 高く維持

「私たちの希望は、資源を保護しながらゆつたりと成長することです。将来の世代のために、自然保護の基準を高く維持することに重点を置いたチャーター事業を成長させることです。」

コディアックはアメリカで第3位の水揚げ量を誇る商業漁業の町。資源保護を優先するために、産業は細かく規制を受けており、それによって漁業やチャーター事業は多くの恩恵を受けています。ここには専門的な海洋サービスマンや、水産加工施設が揃っています。この場所を訪れる釣り師たちは、数年後まで最高の品質を保つことのできるプラスチックバックの積み箱に、自慢の獲物を入れて、家族や友人

たちに持ち帰ることができるのです。この素晴らしいコディアックの本場のストーリーは、ここにある写真にすべて詰まっています。」

そこには、苦節25年を越えて、世界レベルの不動のチャータービジネスを成功させたキャプテン・クリス家族の暖かい笑顔がありました。

コディアック・アイランド・チャーターズ
www.kodiakstrandcharters.com



「戦後70年」の真の意味

「70年談話」と日本の役割

第二次世界大戦後「70年」、中国に追いぬかれたとはいえ、世界第三位の経済国家日本は、21世紀の今日、既に到着した環太平洋時代において、英国に代わる島嶼国家の代表です。戦後70年という節目の時に「日本」の安倍晋三首相がどのような70年談話を出すか、周辺関係諸国と世界が注視しています。

その理由は、第二次世界大戦時、他国から考えると、日本は侵略国家であり敗戦国家であるにも拘わらず、戦後、韓国や中国に対する賠償を免れた形で、あたかも戦勝国家のように振るまおうとしているようにみえるからに他なりません。

既に「環太平洋時代」が到着しており、これまで米ソ時代を形づくってきた共産民主の闘争時代が終焉を迎えています。現在、時代はその残存物とも言うべき「米中時代」に向かうかのように見えますが、そうではなく、21世紀の新しい時代は既に開け、共産民主の闘いを真の意味で克服できる、深い精神文明に根ざした「環太平洋時代」として既に光を放ち始めています。言い換えればこの新しい時代は、日

韓を中心とする「北東アジア新(真)海洋時代」であり、最終的な人類の恒久平和と繁栄を実現する時代です。太平洋に位置し、この時代を牽引するべき日本の役割は、甚大かつ深刻なものがありません。日本が今後どういふ国家となり、その役割をどう担い、果たしていくかについて、本質的な観点から周辺関係諸国と世界の耳目が集まり、日本の「70年談話」を注視せざるを得ないのは当然のことと言わざるを得ないでしょう。

その意味で、これまでの歴史とその歴史が真に意味するところを正しく理解しなければ、70年談話を出す事はできません。第二次世界大戦が終わると同時に始まった第三次世界大戦に対する防備策として、戦後日本に課せられた「55年体制」ですが、「55年体制からの脱却」とか、漠然としたタイトルの「積極的平和主義」という言葉では表現しきれません。「55年体制」がどの様にして出来たのか、また、どの様に脱却することができているのか、新たな21世紀はどのような世紀なのか、真の環太平洋時代の到来の意味をどの様に理解し、その時代とどう日本が取り組むべきかが明確に理解できる「70年談話」でなければ

なりません。

歴史の70年原則を越えられない共産主義陣営

第二次世界大戦では、主に基督教国家である英米仏の連合国側が勝利し、それによって韓半島も解放され、第一次世界大戦以降形成された植民地も解放されました。そればかりか各植民地は、国際連盟に代わって成立した国際連合に、主権国家として加盟できるようになり、人類社会は、新たな普遍的価値観を模索する時代圏に入って参りました。国際連合は、地球上に生きる全ての人々の人権、自由、平等を保障すると共に、全ての国、民族が、平等で豊かに生きることのできる時代、即ち共生共栄共義時代の到来を模索して参りました。

第二次世界大戦後の世界編成の動きの中、有史以来の無神論信仰である人本主義が、その集大成とも言えるべき共産主義国家を産み出し、一挙に膨張して共産主義陣営を形成し、世界は共産民主の二大陣営に分割されました。北東アジアも共産中国と国民党率いる台湾に、北朝鮮と

戦後シート チャートI

- 戦後70年 - 第3次世界大戦終結とその後

第一次世界大戦

1914-1919

トルコ、独、オーストリア ✕ 英、仏、露
(1917 ロシア革命-共産主義国家登場)

第二次世界大戦

1939-1945.8.15

独、伊、日 ✕ 英、米、仏
(日韓併合40年終結/長崎・広島に原爆投下/1948.9 中共、北朝鮮-38°線出現)

第三次世界大戦

1945.8.15~

ソ連、中共、北朝鮮 ✕ 米、日、韓
(共産・民主の思想戦)

韓国に分断されました。このような諸情勢下、侵略国家であると共に敗戦国家である日本が、逆に分割の危機を免れ、充分な賠償金すら支払わずに、韓国38度線防衛のための後方支援国家の役割を担うようになりました。いわば55年体制です。その結果、日米安保条約の保護の下、日本は、英国の産業革命に伴う西洋物質文明を導入して、世界第二の経済大国となりました。

この間、第三次世界大戦とも言うべき共産民主の闘いは、互いに核兵器を持つようになり、地球を600回破壊する程の核保有量に達しました。人類滅亡を意味する熱核戦争は、両陣営とも避けなければならず、自ずと米ソ冷戦時代を迎えました。戦いは、膨大な核兵器による威嚇を背景に、思想、情報、経済など各分野にわたる総合戦、総力戦となりました。しかし、この戦いも、ソ連、東欧、ベルリンの壁の崩壊を機に、共産陣営は、ほぼ壊滅的状況に追い込まれています。これによって有史以来の人本主義思想時代は、最終的に終焉を告げました。その残影としての中共や北朝鮮も、中共と北朝鮮が誕生した1948年から70年目の2018年から2020年までには、経済や道徳的問題が原因となって解体されることが容易に予測されます。ソ連は、1917年のロシア革命から70年目の1987年にペレストロイカを導入し、1990年には解体されました。同じく中共と北朝鮮も「70年原則」を越えることができないのです。

花火は燃え尽きる前にとりわけ大きな光を放ちます。その譬えの如く、今、中共の勢いは最も盛んに見えます。しかし、人本主義の根本は完全に崩壊しています。歴史はどのような犠牲を払ってでも、人間の本心の願う理想郷へと動いていきます。中国、北朝鮮は、ソ連が崩壊した時よりはるかに早く自由主義化すると予測されます。それまでは米国、日本、韓国など、基督教など宗教を本質とする自由主義の国々は踏ん張らなければなりません。その点では安倍政権が目指している集団的自衛権の行使や平和安全法制の制定は全く正しいものと言えるでしょう。

揺らぐ民主主義の価値観と自由陣営

しかし、米国、日本、韓国などの自由主義陣営も、経済問題や道徳問題で同じように崩壊の危機に瀕しています。国と国、民族と民族、宗教と宗教間の紛争、闘争、格差社会や環境問題、食糧問題は、日々深刻化の度を増しています。これらの問題の本質は、C O P 21(国連気候変動パリ会議)や食糧サミット等で指摘されているように、「問題の本質は、人間そのものの矛盾に潜む」ものであり、「人間の矛盾が顕在化している」に過ぎません。先進国家であればある程、青年の自殺者、離婚、うつ病、道徳問題、性の堕落が多く、人類は発展や高度化を目指してきたにも拘わらず、反対に発展よりは矛盾、停滞、後退が多く、

偽りの発展や偽りの高度化、偽りの豊かさ、人類自らを滅ぼしている姿を目の当たりにする今日の世界です。
戦後70年、国連を結成し華々しく出発した世界は、21世紀に入って深刻な転換期を迎えています。国連が、人類社会全体の発展や、地球上に生きる全ての人々の幸福と平和を獲得するために、これまで到達し維持してきたはずの普遍的原則である国際法、即ち、民族自決、基本的人権や自由、平等、民主主義といった価値観の原点が揺らいでいます。そういう意味で「戦後70年」の意味はあまりにも大きく深刻です。人間性に潜む矛盾を克服しなければ戦後「70年談話」は出せないでしょう。

21世紀環太平洋文明時代へ突入

70年談話を正しく出すためには、これまでの人類文明史を遡り、21世紀環太平洋時代の到来の真の意味を理解しなければなりません。歴史は、全ての生命が出発した海から始まります。未文化時代である古代陸上文明から河川文明、地中海文明、大西洋文明へと、より大きな海洋を中心文明は発展し、その間、崩壊と再生を繰り返しながら、今や、最も大きな海である太平洋を中心とする、環太平洋文明時代を迎えています。この時代は北東アジアの時代であり、その時代の主役はまさしく日本です。そのような日本が、この時代に達成しなければならない文明とは

戦後70年-2020まで
人類共同体機構
共生共栄主義社会
(共産主義=人本主義完全崩壊、超民主主義世界到来)
《海洋真時代》核完全廃絶、武器根絶、
超宗教・超国家・超民族の究極の理想社会

戦後シート チャートII



如何なるものでしょうか。それは、全ての生命の原点である海を基盤とした海洋文明、地球上で最も大きな海である太平洋を基盤とした環太平洋文明です。人類歴史、最後に最初の矛盾のない文明を日本は構築しなければなりません。

人間は、母の胎内のピュアーソルトウォーター（純粋な海水）から生命を得て人生をスタートします。同じように全ての生命の起源は海です。全ての生命の起源である海がピュアー（純）でなければなりません。太平洋を巡る黒潮が全世界の海を循環させる原動力になっています。世界の人々は、この黒潮を名づけてジャパンダイド（日本海流）と呼び、黒潮（シヤパンダイド）が、世界の海・五大洋を動かしています。そういう意味で、日本はピュアーソルトウォーター（純粋な海水）の出発点となり、日本が真の海洋文明を出発させる国となり、矛盾に満ちた世界のこれまでの文明を、根本から蘇生、再生させる役割をしなければなりません。

日本は、国家として、人間が求めている真の価値、矛盾のない家庭、社会、国家を実現させ、世界を導く希望、実体にならなければなりません。英国はかつて基督教改革運動の先頭に立ち、無血革命を実現し、権利の章典を発表した基盤の上で、エリザベス一世は海洋政策を力強く遂行し、海洋教育に力点を置いて、海で自由に生きることの出来る国民を次々と創りあげ育てました。その中で産業革命が起き、結果として英国は、七つの海に君臨し陽の沈ま

ない国を築くことができました。こうして英国の言語と文化が世界の言語と文化になつていったのです。このような時代の趨勢のなかで、イギリス聖公会では飽き足らない清教徒たちが、更に「自由に神を礼拝することのできる新天地」を求めて、大西洋の海に身を投じ、「より確かな神の下の自由、人権、平等」を求めてアメリカ大陸へ向かつて、命懸けの航海をしました。このような人々によつてあの第二のローマと言われた米国が誕生したのです。そして、大西洋の北辺の海に浮かぶ小さな島嶼国家、英国が「海を制する者が世界を制する」という諺を産み出したのです。

ここで注目すべきは、英国は「海を制する人々によつて産業革命を起こした」という点です。エリザベス二世の海洋政策と産業革命が繋がっているという点です。なぜ、海が産業革命と関連しているのでしょうか。なぜなら、海は全生命の原点、出発点であり、陸や空より海にこそ、より深く高次の精神性、滋養性、創造性、科学性等が内包されているためです。海を制すれば制するほど、産業革命を起こしうる高次の創造性、科学性が開発されるからです。平和や愛、謙讓、平等、自由、人権などの価値の原点も海から生まれ、霊肉両面の五感も海で陶冶されます。肉身の鍛練も海で行うことがより本質的です。海洋の価値を悟ることによつて、日本は環太平洋時代を導く主役としての役割を果たすことができるようになります。誰もが願う「戦争のない平和と繁栄の人類社会」を実現

することのできる、21世紀の産業革命を、日本は起こすことができるのです。

真の海洋文化文明の創出を 決意しよう

問題は、日本が、果たして英国に代わる新たな海洋国家として、その役割を担う資格があるのかということが問題です。対立、収奪、闘争、矛盾を内包し続ける陸上墮落物質文明のみを英国から導入しただけでは足りないだろうか、日本が果たして、海で自由に生きる道、海に身を投げ出し海から出発する文化文明を、更に切り開いているかが問題です。

その意味で70年談話の未来志向の部分は、海洋民族、海洋国家である日本が、歴史を通して先人たちが願ってきた「真の海洋文化文明の創出を決意」する所から始めなければなりません。陸上にとどまらず、海に身を置いて海から発信しなければなりません。日本のあらゆる指導者、ポートで海に出て、海から国のあり方と世界のあり方を考える勇氣を持たなければなりません。海を制することが真の平和を実現する原点であることを身を持って体験し、それを広く示さなければなりません。

すなわち、日本にとつて、この「70年」の意味するところは、あまりにも大きなものがあると言つても過言ではありません。かつて、イエスを十字架に掛けたイストラエル民族はイエスの予言通り、紀元後70年目

に流浪の民となりました。共産主義も70年が限界でした。同じように戦後も70年が限界です。歴史は確実に新たな環太平洋文明時代圏に突入して参ります。日本は、英知をもつてその時代の主流にならなければなりません。

これから訪れる時代のための組織は、国際連盟、国際連合を越えた新たな価値基準に基づいた究極の国際組織でなければなりません。全ての人類が共生し共栄していくためのものでなければなりません。一切の不平等、差別がなく、各宗教が標榜し続けて来た、良心に恥じる事のない、人々が共に生きる理想世界でなければならず、全ての人々の天与の個性が完全に開花される世界です。一切の負債がなく生産性が高度に発展した世界でなければなりません。生産、供給、分配は適正で過不足なく、適度な貯蓄の備えのある社会が形成され、互いが有機的に連帯された社会、即ち一人の人体のような世界です。人体のように、どこかに傷があれば、全体がその痛みを感じ、すかさず全体の機能がその問題解決のために動員され、その傷がすみやかに治癒される、人類一家族世界でなければなりません。海を通して、人類は分断ではなく調和と協働による発展を学び、国家や人種の障壁をすみやかに越えるに違いありません。日本が先頭に立つてそのような世界の実現を決意する「70年談話」であつてこそ、日本は、尊敬と期待の持てる国として世界から歓迎を受けることとでしょう。

（編集部）

海と人間

Sea and Man



第一編

地球、人間の歴史概観

富山商船高等専門学校名誉教授 山崎祐介



山崎祐介
やまざきゆうすけ

1941年 愛知県に生まれる。神戸商船大学商船学部航海学科卒。すぐに国際航路の船乗りから社会人生活を始め、約2年後に遭難。九死に一生を得て陸上へ上がる。人間学、安全工学を勉強し、1998年船舶安全学を確立。2001年にインシデント（未然事故）研究により日本航海学会優秀論文賞受賞。2004年にインシデントに関する出版により住田海事・海事史奨励賞受賞。
研究業績等…主な著書8冊。国内外論文多数。甲種船長免許受有。
現任…富山商船高等専門学校名誉教授。海洋訓練教育協会顧問。富山平和大使オリーブ・カレッジ学長。各種安全調査研究委員会委員長。安全・教育・環境等の講演等を行う。現在の趣味は写真。海釣り。水泳。

今世紀の人類が直面しつつある五大問題として、エネルギー問題、水問題、食料問題、人口問題、地球環境問題があると言われています。それらは、それぞれに独立しているのではなく互いに関連しています。私は、自然（とくに海）がこれらの鍵であると考えています。

私は、生来、海が好きで人間の一人です。商船大学を卒業し、外国航路の船乗りになり、船乗りを育てる学校に奉職しました。その仕事とともに、主として安全について勉強してきました。その際に、私の頭の中にはタイトルにした「海と人間」に関する考えが背景にいつもありました。それらをできるだけ分かりやすくまとめた以下に示す内容を、皆さまにお読み頂きたいと思ひ筆を進めています。

第一編 地球、人間の歴史概観

（私たちの足元の地球の概観、私たち人間の歴史の概観）

第二編 海があるから命がある

（海の機能、母なる海）

第三編 自然と人間の関係

（人間の自然観）

第四編 海は人間の心身を正してくれる

（海洋教育の精神的側面）

第五編 海の恵みー日本の海洋資源

（日本の深海底の地下資源）

第六編 海の恵みー海洋エネルギー

（日本の海洋自然エネルギー）

第七編 海の恵みー食糧問題

（世界や日本の食糧と水の問題）

第八編 海の恵みー漁業

（世界や日本の漁業）

第九編 海の恵みー海運

（浮力がもたらした世界流通としての海運、現在の日本の海運）

第十編 海の恵みー日本の海洋事業

（日本は、海洋調査、探査、海洋工事に関して世界最先端）

本稿では、まず私たちが住んでいる足元の地球と私たち自身の人間の歴史を概観します。

人間は特別の存在ではなく、自然の一部としての生き物の一種

まず、写真1-1を見てみて下さい。富山湾越しに見える劔岳からの日の出です。劔岳は、北アルプス北部の立山連峰にある標高2999mの山でその頂上は、富山湾の海岸線から約30kmのところにあります。このように海越しに3000mクラスの山を望める場所は大変珍しいと言われています。2014年10月、背後に北アルプスの景観を持つ富山湾が「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟すること

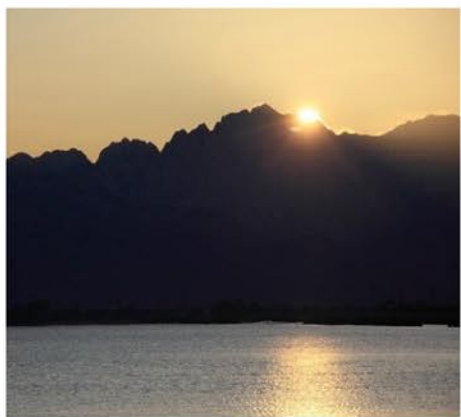


写真1-1 海越し劔岳（山崎撮影）

が決まりました。実際に神々しく美しいのです。写真1-1は、自宅から車で7分の浜辺から撮ったものです。この類の写真撮っているとき、早朝の浜辺を散歩する人々がいます。ふと見ると、この光景に向って手をあわせる祖父と孫がいました。「元旦の日の出を拝む日本人は多く見るが」と思いながら、何気なく私も真似をして海、劔岳、日の出に手をあわせてみたら気持ちがあすきりました。この根底に流れる心情は神道なんでしょうか、自然体験を教育に取り入れている某有名教育者の講演を聞いた際にも、山や海、森、太陽等すべてに魂が宿っており、人間は特別の存在ではなく、自然の一部であると聞きました。私もなんとなく納得した覚えがあります。

地球の歴史概観

約137億年前に宇宙が誕生し、广大



写真1-2 月から眺めた地球
(NASA Public domain)

な宇宙には、無数(700垓(がい)個)の星があります。その中に、天の川銀河(約1000億個の恒星)があります。1垓(がい)とは、漢字文化圏における数の単位の一つで10の20乗を示し、1京(けい)の1万倍です。その中に太陽系があり、太陽という恒星の周りを公転する8つの惑星の一つが地球です。ここに私たちは住んでいます。ときおりは満天の夜空に輝く無数の星を眺め、自分の存在の小ささを感じて下さい。私は月から眺めた地球の写真1-2を見て、「人類や他の生き物は、同じ宇宙船地球号に乗り合わせた仲間だ」ということと、「地球にも保護が必要で華奢な存在だなあ」ということを感じました。現実には地球自体はそんなに弱いものではなく頑丈ですが、生き物が住む地球表面が弱いのです。

また、生き物が住む地球に関連して、ヨーロッパ南天文台(European Southern Observatory20 ESO)は、2012年3月、生命の存在する可能性がある地球に似た惑星が、天の川銀河には数百億個存在し、そのうち、地球から30光年以内にある惑星は約1000個との推定を発表しています。

地球の歴史を概観してみましょう。1億年を1年と仮定すると、地球は現在46歳、主な出来事は次のようになると思われます。

- ④ 地球誕生が0歳(現在46歳)
- ③ 月誕生が3歳
- 火星サイズの天体(地球の約1/10)が地球に衝突して月が誕生、地軸の傾き(自転軸の公転面となす角23.4度)が生じ、地球に四季が出現した。
- ② 海の形成が6歳
- 数億年かけて地球の表面温度が少しずつ下がっていき、大気中の水蒸気がまとまって雨粒となり、数百年間大量の雨が地上に降り注ぎ5億年もかけて海ができた。
- ① 海で生命が誕生したのが7歳

① プランクトンやサンゴなど炭酸ガスを吸収する生物が誕生した。

② 地球上に大陸が形成されたのが27歳

植物が繁茂し、大気中のO₂量は減少し、現在の大気となった。

- ③ 動物が海で生まれたのが33歳
- ④ 動物が海から陸へ上がったのは42.4歳
- ⑤ ホモ・サピエンス誕生は46歳の18時間前
- ⑥ キリスト誕生は、46歳の10分30秒前
- ⑦ 20歳の大学生は46歳の6.3秒前に誕生

つまり、つい最近出てきた人間が急速



写真1-3 地球 (NASA Public domain)

に増え(後述)、地球が何億年もかけて作り上げた資源を後のことも考えず数分で使い切り、環境を破壊しつつあるということが納得できます。写真1-3に見るように、地球表面は海が約71%を占めており、太陽系の惑星の中で、これほどたくさんの水を湛えているのは、地球だけ(水の形で火星にも多く存在)で、地球は「水の惑星」とも呼ばれています。

1961年にソ連のユーリ・ガガーリンは、初めて宇宙(地上322km)から地球を見ました。そして、「地球は青かった」と言いました。彼は海を見たのです。海の深さは、地球直径を1mと仮定したときの換算値で言いますと、平均約0.2mmで表面に極めて薄い水の膜が貼っている状態と等しいのです。そして、海水の全量は0.66リットルです。海は私たちが考えている以上に繊細なものなのです。また、この写真を見れば、地球は真球に近い球体ということがはっきり分かります。今から約500年前の1543年にコペ

ルニクスは当時、主流だった地球中心説(天動説)を覆す太陽中心説(地動説)を唱えました。このとき日本は戦国時代でした。また、1492年イタリアのコロンブスは新大陸を発見し、1522年ポルトガルのマゼランが世界一周をし、地球が丸いことを実証しました。

図1-1に見るように地球の深部構造については、地球直径を1mと仮定すると、地表から地球中心までは、50cm(96371km)です。

- ④ 地殻が約4.7cm
- ③ 上部マントル(岩石)が約4.7cm
- ② 下部マントル(岩石)が約17.5cm
- ① マントル全体で約22.2cm
- ④ 外核(主に鉄、液体)が約27.4cm
- ③ 内核(主に鉄、固体)が約9.6cm

なぜ、このようなことが分かるかという点については、例えば、すいかをコンコンとたたいて実がたまっているかを調



図1-1 地球の深部構造

べたり、聴診器を当てて体の様子を調べ
るように、地震波の伝わり方から地球内
部を調べることができると言われていま
す。

上部マントルに近い部分の地殻は、硬
い板状の岩盤(プレート)十数枚で覆われ
ています。それらのプレートは、マントル
の上に乗ってごく僅か(例えば太平洋プ
レートは1年間に9cmほど)動いてい
ます。これはマントル対流(中心部に近い
マントルが上昇する運動と地球表面で冷
えたマントルを含むプレートが下降する
運動)が続いているからです。このゆっく
りとした速度の違いから、プレートどう
しがぶつかり、その付近で強い力が働き、
地震が発生します。地球は元来、地震が起
きる星なのです。日本は、「ユーラシアプ
レート」「北アメリカプレート」「太平洋プ
レート」「フィリピン海プレート」の4枚の
プレートがひしめき合っている場所にあ
るため、世界有数の地震国で、世界の地震
の約1割が日本で起きています。これ以
上の説明は省略しますが、地震は人間に
とっては不幸なことですが、地球の存続
のためには必要なことの一つなのです。

人間の歴史概観

私たち人間の歴史を概観しましょう。
人間(ヒト)の歴史20万年を24時間(1日)
に換算してみると分かりやすいでしょ
う。

④ 約20万年前 現在のヒトがアフリカ
に出現 零時

③ 約10万年前 アフリカ人口2万人
午前12時

② 約5万年前 ヒトの一部がアフリカ
から中東に移動しはじめ、欧州・アジ
アに移住し白人と黄色人種のルーツ
となった。当時は狩猟で使う投擲具の
使用が特徴的だった。午後6時

① 約1万年前 農耕、土器、戦争、宗教
のはじまり 午後10時
人間社会に農業が定着し、技術改良
や工夫がなされ食糧生産が安定し、
人々の暮らしも豊かになり、物の所
有と富の蓄積が始まった。

⑤ 約5000年前 初期の文明(エジプ
ト、メソポタミア) 午後11時20分

私たちヒト(人、人間、ホモ・サピエン
ス)は、投擲具(とうてき)と長槍を精度
良く命中させる簡単な道具で、今でも使
われている(を考案し、大きな動物も遠く
から狙って命中させることで獲物の種類
を増やしていきました。この道具こそ人
類初の大発明でした。また、人間は、四足
歩行の動物よりも出産が困難で、他の人
間の手助けが必要だったことから集団で
助け合いながら生活するようになったと
も言われています。このようにして、氷期
を耐え、ものづくりをし、助け合いながら
集団で生き永らえてきたのです。つい
2000年程前までは、農業だけでなく、他
の分野の生産はすべて風力や水力で、原
料もすべて自然界から調達され、廃棄物
は再び自然界へ還元されていたため、地
球環境へ与える影響も小さいものでし

た。しかし、2000年前以降の産業革命
以降、石油や石炭燃料が大量に使われる
ようになり、地球上でのエネルギー消費
量は急カーブで上昇し、物の生産量も急
激に増加しました。さらに、第2次世界
大戦以降、世界は大量生産・大量消費、そ
して大量廃棄社会に突入しました。生産
力向上に伴って、世界人口もこの1000
年間で4倍に増加し、一人当たりの食料
や物、エネルギー消費量も増加しました。
廃棄物も急増し、美しい地球全体がごみ
捨て場になってしまいました。

世界人口の推移

2015年の世界の総人口は約72億
5000万人となり、直近5年における
人口の増加率は1.1%のプラスとなっ
ています。中国、インドで約4割を占め、
日本は世界第10位です。図1-2を見て
分かるように、約2000年前から6
倍、40年前から2倍に急増しています。
今、少し増加率は減りはじめています。大
気中のCO2の推移もほぼこのような
急増ぶりです。

若干のまとめ

頭が良い(知能指数が他の生物に比べ
て高い)のだが、賢くはなかった人類は、
エネルギー問題、水問題、食料問題、人口
問題、地球環境問題等という人類存続の
危機を自ら作ってしまいました。この危
機を回避するには、海が大きな力ギと

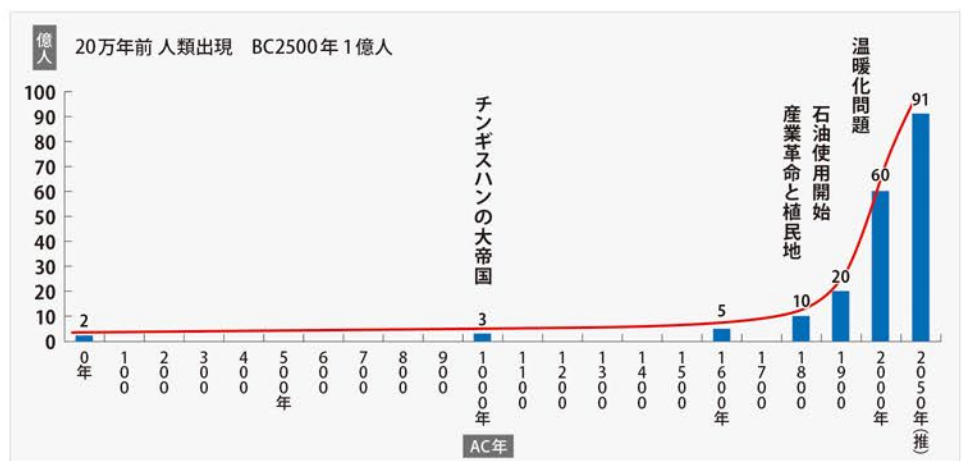


図1-2 世界人口の推移

なっています。私たち人間の幸福感、価値
観等を少し変える必要があるとも思いま
す。

次回は、第二編 海の機能―海がある
から命がある―について述べます。

お暇なとき、私のブログ、海が好きだ
(<http://yama0525.exblog.jp/110/>)も
ご覧ければ幸いです。



憧れに全てを捧げて進む
これぞ我が闘い



佐々木吉夫

福さ屋株式会社 代表取締役社長
佐々木吉夫社長 プロフィール

昭和8年9月27日 日本最北の北海道礼文島生まれ
昭和32年3月 中央大学法学部卒
昭和32年4月 国会議員秘書として参議院に勤務
昭和41年5月 中小企業事務協会を設立 初代理事長就任
中小企業者の労務・社会労働保険経理事務支援
昭和42年3月 医療事務研究会を創設
我が国最初の診療報酬請求事務委託及び
請求事務養成講座開設
昭和51年4月 博多ステーションフード株式会社
代表取締役社長就任
昭和53年5月 福さ屋株式会社
代表取締役社長就任
昭和62年1月 博多辛子めんたいこ協同組合設立
初代理事長就任
平成元年7月 全国辛子めんたいこ食品公正取引協議会認可
初代会長就任
平成27年度 中央大学・産経新聞社寄付講座
(グローバル・コンパス) 講師に任命される

※ 受賞歴

昭和50年 参議院特別職永年勤続表彰
平成18年 公正取引委員長表彰
平成24年 防衛大臣感謝状受賞
平成25年 天皇陛下より、ふるさと貢献に対し紺綬表彰受賞

オレが村長になる!

日本の最北端の島、礼文島で、網元の三男として生まれ、敗戦までは裕福な暮らしをしていましたが、終戦後、漁業権の開放などにより、家は一挙に没落。それから苦労が始まりました。中学校までの行き帰り、海岸に打ち寄せられた昆布を拾ったり、漁に出てホッケやニシンを捕ったり、家ではランプや庭の掃除など、父は幼い頃からしつこく厳しく、沢山の仕事を手伝わせた。もともと、父は教育者で小樽高等学校(現小樽商科大学)で英語の教師をしていたそうです。長男が早く亡くなったため、網元を継いで人生は一転し、古平や礼文島で漁師の親方となりました。一方、母はいつも「見えない神様がちゃんと見てるよ」と、神仏を大切にすることを私に教えてくれました。

まともな病院もなく、電気がつくのは午後5時から10時の間だけ。「貧乏なのは為政者が悪いからだ。それならオレが村長になってやる!」中学卒業後、本気でそう考えて姉の嫁ぎ先へ転がり込み、親に内緒で江別高校へ入学しました。父は烈火のごとく怒りました。厳しい父への反発もあって家を飛び出したものの、休学して漁師を手伝うという条件で許しをもらいました。一年後、姉の家に出世払いで居候をし、授業料が月3800円。5000円の奨学金と牛乳配達で得る6000円の収入が全てでした。吹雪の日は夜中の2時に起き、そりを引いて200軒に牛乳を配ります。乳の出ない母親が戸口を薄く開け、配達を待っている。「乳飲み子の命の綱なんです。学生さん、有難う」と言われ、集金に行けば「こんなに大きくなりました」と赤ん坊

を見せられました。「そうか、おれは牛乳配達してるんじゃない。赤ん坊を育ててるんだ」と思い、それまで惨めな思いでしたが、どんな仕事にも意味と責任があると痛感しました。あの体験は仕事に対する一生のバックボーンになっています。

今この時を全力で生きる!

その後、中央大学法学部へ進学し、生活費は全て自分で稼ぎながら、社会科学研究会に入って、各地の闘争に参加したりしていました。就職難で東京の会社に就職が決まりましたが、卒業の確認に大学に行ったところ、同じ大学出身の社会党参議院議員が「秘書募集」の張り紙を出しているのを見かけました。その瞬間、「これがオレの仕事だ!」と衝撃を受けました。頭にはいつも「村長になる!」という思いがあり、労組や党本部では面接でしごかれましたが、難関をくぐり抜け議員秘書になりました。振り返ってみると、人との出会いを大切に、どんな仕事の中にも意味を見出して来ました。「今、この時を全力で生きる」ことこそ未来に繋がることだと信じています。

1957年に秘書になった当初は、全国の久保等議員(全電通)のもとにいました。66年からは妻の父である、同じ社会党の小柳勇参議院議員の秘書になり、地盤である北



九州市に移り住みました。当時、福岡県知事も北九州市長も革新で、労組は強く新参の秘書の出る幕はありませんでした。そこで中小零細企業の世話役活動に徹しました。賃金計算や社会・失業・労災保険の納付、給付など、今で言う「社会保険労務士のはしり」のような業務を行う事務協会を、会費制で始めました。零細企業への個別訪問の機会も多く、働く人の悩みを直接聞くことも出来ます。例えば、建設業者は公共事業を契約したいという。しかし、知事登録が必要だということも知らない。そこで登録を手伝い、経営事項審査申請をして受注できるようにしてあげる。建設六法や自動車六法を熟読して大工さんや左官屋さんが受注できるように、また、バス、タクシーの運転手さんが個人タクシー免許を取れるように手助けしてあげる。無担保・無保証の小口融資申請書を持つて商店主を役所に連れて行く……そんな毎日でした。そうやって彼らは一生の武器を手に入れることができました。そこで、票の取りまとめをお願いしたり、奥さんを選挙の炊き出し要員に出してもらったり、社会党の話をして反応のいい人には戸別訪問もしてもらったり

しました。



74年には、保険や経理に強いところを見込まれ、社長が夜逃げし、社員がボーナスも給料も貰えずに放り出された港湾運送会社の社長に

なりました。社員の奥さんに「起こし賃」として月5000円を支給しました。トラック運転手が毎日早起きしてくれば、確実に水揚げが増えます。運転手にはターミナルを掃除してもらい、荷主の印象も良くなり成績を上げました。また75年には、新幹線が博多まで延びたために夜行列車の客が減り、博多駅構内にあったサウナ風呂が危うくなり、負債を抱えた経営者から相談を受けました。それを機に「博多駅を周辺住民にも親しみやすい場所にした」との思いで、全国に例のない、駅構内の生鮮食品スーパーを出店を決断。76年4月、当時は珍しい朝9時から夜9時まで営業、年中無休の「博多ステーションフード」をオープンしました。

「たつぷりな時間に、たつぷりな品ぞろえ」がキャッチフレーズで、デパートが午後6時までの時代に、専門家からは笑われました。しかし「肉、野菜、果物、魚をフレッシュに」をモットーに、夜9時まで「たつぷりの店」なっきと売れると思ったのです。単身赴任者も多いので、電話でメニューの相談を受け、それを揃えておく工夫もしました。その結果、共働きの女性らが仕事帰りに殺到し、ふたを開ければ大盛況でした！プロの予想では日商180万円がせいぜいとの見通しでしたが、博多ステーションフードは、開店1年目で日商300万円を越えました。レジが行列になり苦情が出たので、今では当たり前になった、計算と金銭の受け渡しを別々の人がする「二人制レジ」を考案しました。

妻と辛子メンタイコ作り

その頃、新幹線のお陰で「メンタイコ」が評

判になり始め、秘書の仕事で東京する度に土産で持っていくました。スケソウタラコの醤油漬けや塩漬け等、タラコなら礼文島で仕事にしていますので、自分でも出来るだろうと、ごく自然な形で



手がけるようになりました。タラコのおいながら、妻のひたむきな協力のお陰で、辛子メンタイコ作りに励みました。そのうち、戦後まもなく辛子メンタイコの味付けをしてきたという職人にめぐり合い、ようやく「福さ屋」の味ができました。味は決まったものの、仕入れルートは不安定だし、資金不足で思い切った買い付けもできません。そのため原料の質が安定せず、営業の一線から安心して売れる商品を作ってくれと言われ、創業以来、手を携えて来た森本英進専務と二人で泣いたこともあります。販路を開拓するために、東京に出よう！そう考えて、79年、有楽町にあったフードセンターの僅か四坪の空き店を見つけて辛子メンタイコを売り始めました。

東京・有楽町に出店し、それに続く1979年10月、日本一の繁華街で辛子メンタイコを宣伝しようと、銀座に屋台を出しました。毎夕、銀座のクラブ4000軒にチラシを配り、法被姿で博多の祭り「どんたく」の音楽を流しながら、夜中の2時まで販売し

ました。当時「福さ屋」の売り場の中で、銀座店は有数の売り上げ高に達し、一晩で15万円も売れました。その姿を当時の三越デパートの岡田茂社長が見かけたらしく、翌日、銀座店の食品課長が「社長命令で来た。三越で売らせて欲しい」とやって来ました。天下の三越からの突然の話に驚くやら嬉しいやらでしたが、ただ、屋台をやめることが条件でした。こちらとしては「ドル箱」になっていたのので、そう簡単にやめるわけにはいかず、それで「銀座店だけでなくどの三越でも出せる権利をくれるなら」と強気に出たら認められ、屋台は結局45日間で閉めることになりました。

全国辛子メンタイコ食品公正取引協議会の設立

80年代半ばから、過大包装や誇大表示などの苦情が、各地の消費生活センターに寄せられました。試買調査などで、公正取引委員会福岡地方事務所(当時)や、県の消費生活課から、「業界の自主ルールを作ったかどうか」と何度も指導されました。87年から博多辛子メンタイコ協同組合をつくり、理事長を務めていたので、皆様に推されて公正競争規約の制定準備委員長になりました。「公取」と聞いても何をしている役所か思い浮かばない業者も多く、商売を縛られるのではないかという不安もあり、業界の機運は盛り上がりませんでした。しかしせっかくなので伸びてきたメンタイコを大切にしようという、一生懸命の説得で筋論が最後には理解されたのだと思います。全国説得の2年の行脚でした。ようやく2年後の89年1月、食品公正取引協議会が認められました。私が生粋の博多っ子

でないのも良かったのかもしれませんが。

各種商品の全国レベルの公取協が73ある中で、東京以外に事務局をおいているのはメインタイコだけです。規約は「器の三分の二以上のメインタイコを詰める」「元祖、秘伝、老舗、最高級、名産等、根拠のはっきりしない文言は使つてはいけない」等々です。規約を守っている製品には「公正」の青いシールが貼られ、規約制定以来、消費者からの苦情は殆ど無くなりました。

海に学び海に育てられた人生

「村長になりたい」と思い、礼文島を出て既に60年を越えました。礼文島を訪れる観光客は、一年に80万人を越えています。親友たちが町長や議長になって気軽にもの言えるようになったので、村長への夢は捨てました。今、もつとも関心を持っているのは「国防」です。礼文島は北の国境の島ですし、故郷を思う心の延長上に、ごく自然な形で「国防」に思いがいきます。

撃つてはいけない、撃つこともないであろう大砲や戦車などを、国民が眠っている間にも、真つ黒になつて一生懸命磨いている若者たちがいる。災害時などにテレビに映ることはあつても、国民の前で拍手喝采を受けることもない、華々しく活動することもない、またそうであつてはならない自衛官達を、背後で感謝し、激励してあげたい。そういう思いから、現在、航空自衛隊7000名、陸上自衛隊7500名の後援会長を務めております。

今は故郷の更なる繁栄と発展を心から願ひ、礼文島観光大使に任命されています。礼文島はもともと寒くて厳しい環境ですが、その中で少しでも住み良く豊かな生活が出来るように、また豊かな人材が生まれるように努力することが必要だと思ひます。現在も、小・中・高に佐々木文庫やバツティングマシンを設置し、野球、卓球、バスケットなどのチームが本土へ遠征試合をする際の旅費支援、競技道具の支援なども行ひ、インフラ関連にも投入しております。

礼文島に生まれ、海に育てられたと思ひつています。大海原が、大自然が、我々を育ててくれました。猛り狂う海、黙つて穏やかな海、四季折々の海に接しながら、その恐ろしさ、優しさ、豊かさ、貧しさ・・・海から全てを学びました。私が尊敬してやまない、江戸時代の偉大な豪商、高田屋嘉兵衛もまさしく海で鍛えられ、海を足場に多くの功績を残しました。「皆、人ぞ」の精神で、アイヌ民族も和人も平等に取引しました。

厳しい父でしたが、今ではその親父の訓練のお陰さまで現在があると感謝しています。母からの影響も大きかったです。

10才の頃、「憧れに全てを捧げて進む、これぞ我が闘ひ。人の幸せは誰の目の前にも山のようにある。ただその幸せを手を出してつかむ勇氣、掴んだら離さない」という努力、忍耐、勇氣、真心、愛情が大切だと思わされて、立派な言葉にこそ表現できませんでしたが、今まで一生懸命働いて参りました。これからも故郷と日本の発展を心から願つてやみません。

PR

PR

改革の勝利者・上杉鷹山

為せば成る 為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり



山形県米沢駅から伸びる大通りを、松川を越えてまっすぐに行くと、清々しい静謐を保った一角に上杉神社と松岬神社があります。若葉の緑がしたたるその境内には、上杉家の家祖であり戦国の雄、上杉謙信を祀る上杉神社、その隣には米沢初代藩主上杉景勝、米沢の礎を築いた直江兼続、上杉藩中興の祖、上杉鷹山他六柱を祀る松岬神社があります。初夏の爽やかな陽ざしの中で、日本史に光を放った英雄たちが、神社を訪れる者たちに声無き声で語りかけていました。

米沢藩中興の祖として、上杉鷹山公は、江戸時代中期、20万両（現在の

100億）という借財をかかえ危機に瀕していた上杉藩を、当時の18世紀、最も先進的な思想理念をもって奇跡の藩政改革を行った名君です。近年、頼に注目を集めています。上杉鷹山公（1751・1822）が藩政改革を行った時期は、徳川家治を第10代將軍として田沼意次が徳川幕府の実権を握っていた時期に当たります。その頃、西欧は中世封建社会から近世基督教民主主義時代に入っていました。

当時は、幕府も財政が厳しく、武士よりも商人や町人が栄え経済力をもつようになっていました。米沢藩が藩を幕府に返上しなければならぬほど逼迫した状況の中、鷹山（治憲）は、九州日向高鍋藩主秋月家から9歳で上杉家に養子に入ります。1767年、17歳で上杉家九代目藩主になった日に、鷹山が詠んだ歌が、「受けつぎて国のかさの身となれば、忘るまじきは、

民の父母」です。鷹山の生涯の恩師、細井平洲に学んだ君徳の教えのごとく、藩内の民の親となる覚悟を凝縮した誓いの歌でした。

上杉家は、藤原氏の流れをくむ公家、勤修寺家の血を引く重房を祖に仰ぐ家系で、越後に生まれた武將謙信の勲功により大名の一角に列せられました。謙信の養子第二代藩主景勝の時代に、秀吉から会津120万石を拝領して豊臣五大老の一人となりますが、関ヶ原の戦いでは西軍についたため、家康から米沢30万石に減封されます。この頃の米沢領は、謙信と景勝の二代に仕えた智將直江兼続の直江山城守の領地で、出羽置賜、奥州信夫、伊達3郡を含んでいました。世継ぎが決まらぬうちに三代藩主が急死したために、急遽、養子を迎えてお家断絶の危機を免れたものの、上杉家は15万石に減封されてしまいます。



上杉鷹山公



上杉神社



上杉謙信公

その後、狭い領国になっても、上杉家はかつての120万石の大名家であつた時以来仕えてきた藩士達をそのまま抱えていたので、財政は苦しくなっていました。四代目藩主は、幕府高家吉良上野介義央の息子綱憲が養子として入つたため、高家の誇りから格式を重視し、更に借金が嵩(かさ)みました。借金は、その後、五代、六代、七代、八代まで、誰も整理できず増え続けました。現在の100億まで高んだ借金を引き受けたのが九代目の藩主、鷹山でした。

この巨額な借金を17歳の治憲(後の鷹山)はどのようにして返済していったのでしょうか。14歳で高名な細井平州に儒学を学び、その教えのごとく改革の核に「徳」をおきました。藩政は藩のためでなく民のために行い、民と藩士達への愛情、労わりは決して忘れないという、「民の父母」の心と姿勢で改革に臨みました。この徳目が鷹山公の改革の勝利の秘訣でした。

鷹山は、藩の窮状を立て直すための人材育成の場として学問所再興を行い、25年間に亘つて細井平州を3度米沢に招聘し、興譲館という学校を造ります。身分を越えて教育を行い、有用な意見を取り入れて改革を推し進めま

した。「興譲」は大学の「一家仁一国興仁」「一家讓一国興讓」から出たもので、君主の家に仁の心が行き渡れば、それに感化されて国中が仁の実現に奮い立ち、君主の家が讓(慎み深く控えぬこと)であれば、それに感化されて国中に讓の気風が興つてくるといふのが、その意味です。米沢では民百姓も読み書きができ、教育は武士に留まらず領民まで及んでいたといえます。この藩校は、現在の山形県立米沢興譲館高等学校として、その流れと名称が引き継がれています。

鷹山の正室は八代藩主重定の娘、幸姫で心身障害者でした。鷹山は幸姫が亡くなる最期まで、愛情深くとても大事にしました。そのことが鷹山が、生涯、弱者に対して労わりのある政治を行う心情的な基礎となりました。鷹山は、性格は素直で正直。洞察力、人を見る目、知恵にも長けていました。志あわせて歩む家臣5人は当時藩政のアウトサイダー達でした。はじめ米沢にお国入りした時、領地は荒廃していましたが、それ以上に民の心も、藩士達も死んでいること、希望を失っていることを感じました。鷹山は、お国入りの旅の途中、火鉢の灰の中で今にも消えそうな炭火に、息を吹きかけました。そうすると消えかかった炭火が再

びあかあかと燃え始めたのです。「再び燃えはじめた炭火」を教訓に、改革の希望をもちます。領民を喜ばせ生かす心に決め、家臣5人と紆余曲折を通っていきます。

鷹山が直面した困難は上杉家の誇り高い仕来り(しきたり)を重んじる重臣達の妨害でした。「小さな藩から来た若造にできるはずがない。この改革がうまくいくはずがない」という重臣たちの圧力が常にありました。自らは藩主という公的立場に立っていたために、不義を見ても怒りをあらわす事もできず、鷹山にできることは感情をコントロールすることでした。しかし本国に入った19歳の治憲は、「自分を藩主と決めるのは重臣達や藩士ではなく、民達だ」と大胆に宣言し、23歳の時、改革を妨害する7人の重臣達を処断します。

鷹山が取り組んだことは、無駄な出費を削減することでした。大侯約令を布いて、鷹山自ら木綿の着物に身を包み、自身の経費は7分の一に、奥女中の数を5分の一に、食事は自ら一汁一菜に切り詰めました。殖産興業によって新たな財源を生み出す努力を重ねました。藩校による教育を身分のわけへだてなく行い、鷹山の改革の思想が民

間まで行渡るようにして、民の活力を高めました。江戸時代、海上航路が整い、日本列島の周りを廻る船が活発に物資を運びました。最上川を通じて米沢の特産品を酒田港まで運び、北前船で日本海の海路を通じて京都や江戸まで運びました。最上川と日本海の水路や海路の恩恵を受けたことも、鷹山の改革を成功させた大きな要因でした。

藩は大きく立ち直っていききました。鷹山の改革によって米沢織、絹製品、



漆器、紅花などの特産品が米沢に産まれました。1793年、大飢饉が原因で再び米沢藩が財政困難になった時、鷹山の要請に応じて改革の危機を救ったのが酒田の豪商本間光丘でした。酒田商人本間久四郎原光を継いだ三代目です。「お金は人のために使うもの」との信念で鷹山の改革を助けました。本間光丘は収益を公共のために必ず還元した豪商として「光丘神社」に祀られ、今も人々に敬慕されています。

鷹山は後継者を育て、自らは自由の身となって更に改革を推し進めようと、35歳で隠居を決意します。この時、鷹山は、十代藩主になった重定の子治広に対して、藩主としての心構えとして「人君の心得」を伝えます。

「一・国家は、先祖から子孫に伝えられるもので、決して私すべきものではないこと。一・人民は国家に属するもので、決して私してはならないこと。一・国家人民のために立ちたる君であって、君のために人民があるのでないこと」これが「伝国の辞」です。

隠居した鷹山は、後見人の立場から、益々改革を推し進めていきます。改革は50年余り続き、鷹山の死後2年目にしようやく達成されます。その時の貯蓄が5千両だったそうです。そ

の頃までに「ぼうくいの商い」が藩内に行き渡りました。無人の場所に置かれた売り物の代価は誰も盗まないという、人を信ずる商いです。

明治11年、西洋人女性として初めて東北を旅行した、英国人旅行家イザベラ・バードは、米沢盆地の風景を絶賛して、「東洋のアルカディア（理想郷）」とまで表現しました。一木一草に至るまで民の豊かな生活のために、すみずみまで整然と管理され利用されている田園風景に感動したためだと言われています。ジョン・F・ケネディ第35代米国大統領も、内村鑑三が英文で紹介した「代表的日本人」を通して鷹山を知り、「民のための藩」という考えに共鳴し尊敬していたそうです。

鷹山公は、「為せば成る、為さねば成らぬ何事も。成らぬは人の為さぬなりけり」という不朽の名言を残しました。不可能に近い目標に向かって、人を愛おしむがゆえに、どんな困難も克服しながら、不変不屈の精神で改革を成し遂げた、鷹山の闘いと勝利を見事に表した名言です。愛のために、不可能に近い目標達成のために闘い続ける私たちに対する、永遠の応援歌です。

(丸山)
(上杉神社・NHK・童門冬二「上杉鷹山」)



光丘神社



光丘神社

キャロライン・ケネディ駐日米国大使

「なせば成る」と日本語で挨拶！

2013年11月27日、キャロライン・ケネディ駐日米国大使は、就任後初のスピーチで、父親である第35代米国大統領ジョン・F・ケネディ氏が、生前、上杉鷹山公を尊敬していたことを紹介し、「父は18世紀の東北地方の大名、上杉鷹山の優れた統治と、公益のために我が身を捧げた姿を賞賛していた。鷹山は（当時他に類をみない）民主主義的な改革を押し進め、様々な階層の人々の社会参加を促し、改革を成し遂げた」と語りました。（日米協会・在日米国商工会議所）

確かに、ケネディ元大統領は、1961年1月20日の就任演説の中で、「国があなたのために何をしてくれるかではなく、あなたが国のために何ができるかを考えよう」と語りかけました。1960年代の困難な世界の中で米国大統領として就任するとき、ケネディ大統領は、鷹山公と藩士領民が上下の別なく一丸となって奇跡の藩政改革を成し遂げた勝利の軌跡を、その道標として掲げていたに違いありません。

昨年9月27日、キャロライン・ケネディ駐日米大使は、米沢市で開幕した「なせばなる秋まつり」に合わせ、プライベートな旅行で米沢を訪れました。鷹山の伝国の辞がプリントされた手拭いを首に掛けて笑顔で車を降り、米沢織の着物と羽織はかま姿の吉村美栄子知事、安部三十郎米沢市長らの出迎えを受けました。伝国の杜でのスピーチでは、「父は鷹山公を尊敬していた。皆さんが鷹山公から受け継いだ遺産をたたえ、新しい世代に伝えていることは喜ばしく、心からお祝いしたい」と語りました。加えて元大統領の言葉を紹介し、「父は『一人でも世の中に变化をもたらすことができる。みんなやってみるべきだ』とよく言っていた。鷹山公ほどそのことを端的に言い表した人はいない」と語り、「なせば成る」と日本語で挨拶を締めくくりました。

(yamagata-np.jp/news/201409/27/)



なせば成る
なせば成る
何事でも
なせば成る
なせば成る

上杉鷹山公詠

PR

編集後記

輝く波、白い雲、エネルギー溢る海の季節を迎えました。海は「毎日行くところ」という意味だそうです。海に憧れながらも編集の毎日（汗、）。しかし感謝です！創刊号は各界の皆様より好評のお声が伝わってきて継続する勇気と力となりました。読者の皆様、今後とも応援よろしくお願い申し上げます。頑張りま〜す。（佐藤、城間、松本、丸山、峰尾、他編集スタッフ一同）

投稿募集

読者の皆様より投稿を募集。海に関する経験・随想・絵画・写真・詩や短歌・俳句など。採用の折は記念品を贈呈。

お問い合わせ/送り先: kaiyoushinjidai@gmail.com

TEL 045-228-9274

(表紙&グラフィック: Mycks)

vol.2 ビギナーズフィーリング ~Begginer's Feeling~



NPO 世界平和海洋訓練教育協会
NPO OCEAN EDUCATION INSTITUTE FOR WORLD PEACE

〒231-0021 横浜市中区日本大通7番地
合人社日本大通7ビル4階
TEL 045-319-4685 FAX 045-319-4683

- 会報「海洋創生」発刊
- 海洋総合大学建設!
- 青少年の海洋訓練教育
- ボート免許取得講習会「めばえの会」

PR

特集

海洋政策の研究

提言一海洋省の創設

食糧問題解決

あなたの食卓から食物が消える日

2015年6月3日発行 季刊誌 2号

発行 雑誌「海洋真時代」

〒231-0851 横浜市中区山元町4丁目173-3-105

TEL 045-228-9274 kaiyoushinjida@gmail.com

国民海洋基金 会員募集

日本と世界の将来の経済や食糧問題、
人類の死活問題は海によって決定されます
海の開拓を通して世界の子供たちに
豊かさと平和を届けましょう



お問い合わせ ☎ 045-319-4686 ✉ info@kaiyouheiwa.com

〒231-0021 神奈川県横浜市中区日本大通7番地 合人社横浜日本大通7ビル4階

(株)海洋平和 国民海洋基金局

定価

300円

ISSN 2189-3152